I·O DATA

WN-G54/BBR 取扱説明書

131912-01

【ご注意】

1)本製品および本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品および本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2)本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3)本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4)本製品は日本国外では使用できません。
5)本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6)本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7)お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
8)弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

もくじ

応用操作

その他

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）「発火注意」を表す絵表示

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）「分解禁止」を表す絵表示

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例）「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。

修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有料修理となる場合があります。

煙がでたり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

コンセントから電源プラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- 接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
- ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器および本製品の電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。

禁止

給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。

給電されているケーブルを接続すると、発煙したり、火災の原因になります。

水ぬれ
禁止

本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場などでの使用は火災・感電・故障の原因となります。

禁止

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外し、コンセントから電源プラグを抜いてください。また、絶対に通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

禁止

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。

厳守

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。

禁止

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータから本製品を取り外してください。

⚠ 注意

本製品を使用中に、データが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。

また、故障などに備えて定期的にバックアップを行ってください。

本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

●振動や衝撃の加わる場所

●直射日光のあたる場所

●湿気やホコリが多い場所

●温湿度差の激しい場所

●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）

●強い磁力・電波の発生する物の近く
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）

●水気の多い場所（台所、浴室など）

●傾いた場所

●本製品通風孔をふさぐような場所
（保管は問題ありません）

●腐食性ガス雰囲気中（ＣＩ$_2$、Ｈ$_2$Ｓ、ＮＨ$_3$、ＳＯ$_2$、ＮＯ$_X$など）

●静電気の影響の強い場所

●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）

本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない

●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない

●重いものを上にのせない

●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

必ずお守りください

禁止

本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。

禁止

パソコンから本製品にアクセス中にパソコンや本製品の電源を切ったり、リセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

厳守

本製品の電源をOFFにした後、再度電源をONにする場合は、5秒以上待ってください。

瞬時に電源をONにすると、正常に本製品がリセットされない場合がありあます。

使用上の注意

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器など
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話/PHS/テレビ/ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話/PHS/テレビ/ラジオなどは、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信やこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できますが、電波は弱まります。
鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。

・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：サポートセンター　電話：　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144

・*その他のご注意*

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。

・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

☞ 12ページ

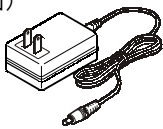
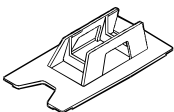
▼

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

☞ 13ページ

▼

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

☞ 16ページ

箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを □ にチェックをつけながら
ご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

内容物	
□ アクセスポイント付き ブロードバンドルータ （１台）	□ LANストレートケーブル （１本：約１m）
□ ACアダプタ（１個）	□ スタンド（１個）
□ アンテナ（１個）	□ スタンド用ゴム足（４個）
	□ ハードウェア保証書（１枚）
	□ 「無線LANについて」シール （１枚）
	☑ 取扱説明書（１冊：本書）

注意！

■箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。
■イラストは若干異なる場合があります。

参考

《ユーザー登録やサポートソフトのダウンロードについて》

ユーザー登録をする際や、弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にシリアル番号が必要な場合があります。
シリアル番号は本製品に貼られているシールに印字されている12桁の英数字です。（ 例： ABC1234567ZX ）

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

●ユーザー登録 ⇒ **http://www.iodata.jp/regist/**
●サポートソフトのダウンロード ⇒ **http://www.iodata.jp/lib/**

動作環境を確認する

本製品と通信できる無線LAN機器
IEEE802.11g※1、IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。 弊社製品例（最大リンク速度） ●WN-G54シリーズ（54Mbps） ●WN-AGシリーズ（54Mbps） ●WN-B11シリーズ※2（11Mbps） ●WN-ABシリーズ（11Mbps）

※1 IEEE802.11gは現在ドラフトです。IEEEによる正式承認後、弊社Webサイトにて正式にご案内いたします。なお、本書内のIEEE802.11gという記述はすべて「IEEE802.11g(ドラフト)」を指します。

※2 WN-B11/LANは除く

■本製品はアクセスポイント機能付き無線ブロードバンドルータです。
そのため、弊社製アクセスポイント「WN-G54/AXP」など他のアクセスポイント（本製品同士も含む）とは通信できません。（アクセスポイント同士の通信はできません。）

■以下の弊社製品とは通信できません。

・WN-A54 シリーズ
・「WN-B11/LAN」
・無線 LAN PC カード「PCWN-W10」
・コードレスネットワークシンフォニーシリーズ「WN-S/560」「WN-S/PCI」「PCWN-S」
・無線スイッチングハブ「WNA-FSWH4」

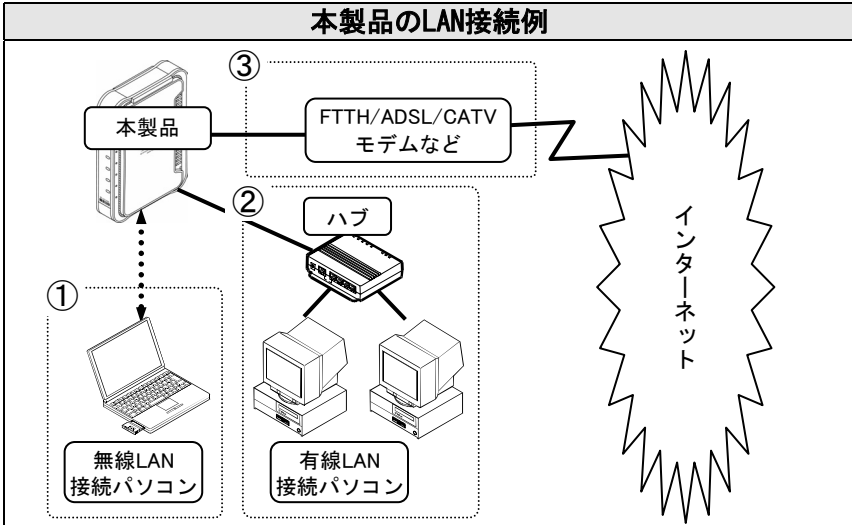
■弊社製電源延長 BOX「WN-OP/POW」は使用できません。

本製品の設定ができるパソコン	
機種	OS（日本語版に限る）
LANアダプタを使用できる下記の機種 ・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン ※弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認しています。	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98 Second Edition

弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート/保証範囲とさせていただいております。Mac OS や UNIX 系 OS などでご利用いただく場合はサポート/保証対象外となります。

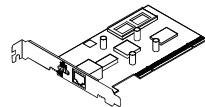
設定に必要なソフトウェア
本製品を設定するには、以下のバージョンのWebブラウザが必要です。お持ちで無い場合は、別途ご用意ください。 Internet Explorer バージョン5.0以上

Internet Explorer のバージョン情報は、Internet Explorer 画面の[ヘルプ]→[バージョン情報] で確認できます。

インターネット接続環境の準備、確認 （下記をご用意、ご確認ください。）	
契約	インターネットに接続するには、FTTH/ADSL/CATV（インターネットサービスプロバイダ）との契約が必要です。本製品を使用する前に契約しておいてください。
プロバイダの資料	本製品を設定する際に、プロバイダの資料が必要になります。本製品の設定前にご用意ください。
インターネット接続の確認	<u>本製品を接続する前に</u>、パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できることをご確認ください。方法について、詳しくはプロバイダにお問い合わせください。

①：無線LAN接続する

【本製品と通信できる無線LAN機器】（13ページ）を搭載したパソコンと通信できます。
（無線LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバソフトなどをインストールしておきます。※）

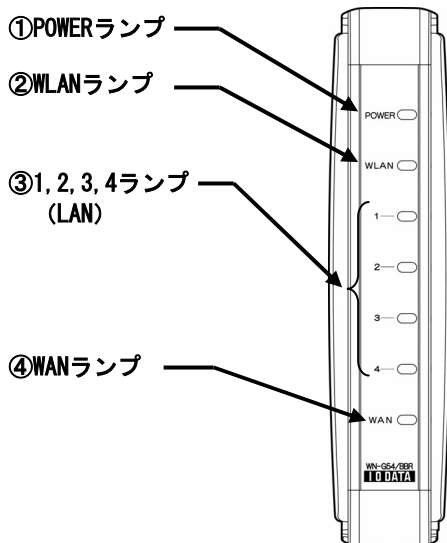
②：有線LAN接続する

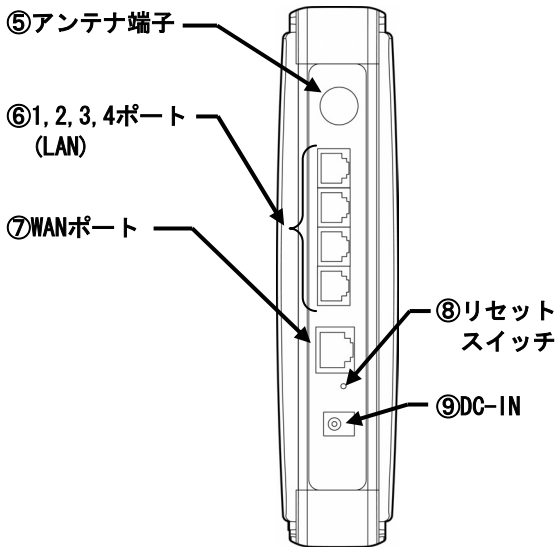
LANポートを搭載したパソコンと接続できます。
（LANアダプタは、パソコンへ取り付け、ドライバ
ソフトなどをインストールしておきます。※）
複数のパソコンを接続する場合は、別途ハブとパソコンの
台数分のLANケーブルが必要です。

③：本製品を通してインターネットに接続する

別途ADSL/FTTH/CATVモデムが必要です。※
本製品⇔ADSL/FTTH/CATVモデムを、LANケーブルで<u>有線LAN接続</u>するとインターネットに接続できます。

※ LANアダプタ、モデムの設定は、各取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえとはたらき

■前面

前面		
名称	色	機能
①POWERランプ	緑	点灯：電源ON 消灯：電源OFF
②WLANランプ	緑	点灯：無線LANが有効の状態 点滅：無線LANアダプタと送受信中 消灯：無線LANが無効の状態
③1,2,3,4ランプ (LAN)	緑	点灯：有線LANが100BASE-TXで接続中 点滅：有線LAN(100BASE-TX)でデータを送受信中 消灯：LANポートのリンクが確立していない状態
	橙	点灯：有線LANが10BASE-Tで接続中 点滅：有線LAN(10BASE-T)でデータを送受信中 消灯：LANポートのリンクが確立していない状態
④WANランプ	緑	点灯：WAN側が100BASE-TXで接続中 点滅：WAN側(100BASE-TX)でデータを送受信中 消灯：WANポートのリンクが確立していない状態
	橙	点灯：WAN側が10BASE-Tで接続中 点滅：WAN側(10BASE-T)でデータを送受信中 消灯：WANポートのリンクが確立していない状態

■背面

背面	
名称	機能
⑤アンテナ端子	付属のアンテナを取り付けます。 ※本製品は技術基準に適合しています。付属のアンテナ以外を接続して使用すると、法律で罰せられることがあります。
⑥1,2,3,4ポート (LAN)	LANケーブルを接続します。（パソコンやハブを接続します。） ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル/LANストレートケーブルも自動判別します。
⑦WANポート	FTTH/ADSL/CATVモデムを接続します。 ※10Mbps/100Mbpsを自動判別します。また、LANクロスケーブル/LANストレートケーブルも自動判別します。
⑧リセットスイッチ	本製品の設定を初期値に戻します。パスワードを忘れてしまった場合などに使用します。（【出荷時設定に戻す】110ページ参照）
⑨DC-IN	付属のACアダプタを接続します。

設定準備をする

本製品を設定するための環境を作ります。

①つなぐ前に確認する

本製品と設定用パソコンをつなぐ前の確認をします。

☞ 20ページ

▼

②設定用パソコンをつなぐ

本製品と設定用パソコンをつなぎます。

☞ 24ページ

▼

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを変更します。

☞ 31ページ

▼

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンの変更したIPアドレスを確認します。

☞ 38ページ

▼

⑤Webブラウザを設定する

設定画面を開くためのWebブラウザを設定します。

☞ 42ページ

▼

⑥メニュー画面を開く

本製品のWeb設定画面を開きます。

☞ 46ページ

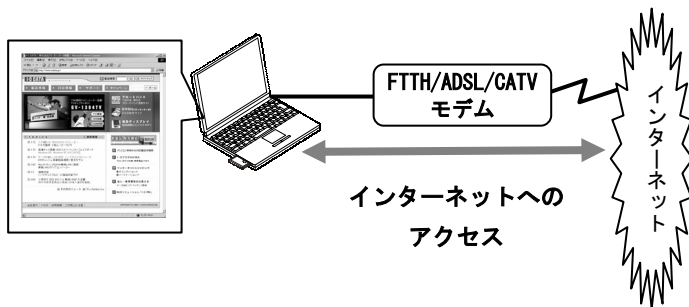
①つなぐ前に確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【①つなぐ前に確認する】の作業は、本製品を接続しない状態で行います。
本製品との接続は、【②設定用パソコンをつなぐ】で行います。

確認①　インターネット接続を確認する

FTTH/ADSL/CATVモデムとパソコンを直接つないでインターネットに接続できることを確認します。

プロバイダからの資料にしたがって設定してください。
WEBブラウザを起動して、ホームページを表示できることをご確認ください。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。

インターネット接続を確認したら、【確認②　現在のIPアドレスを確認する】（次ページ）へお進みください。

確認②　現在のIPアドレスを確認する

ここではまだ本製品を接続しないでください。

【確認②　現在のIPアドレスを確認する】の作業も、本製品を接続しない状態で行います。

現在のIPアドレスを記入してください。

IPアドレスの調べ方は、下記参照ページをご覧ください。

▼確認したIPアドレスを記入してください。

IPアドレス	.　　.　　.

※ここで確認したIPアドレスが　192.168.0.1　だった場合、後に本製品の設定をするときに、本製品のIPアドレスを変更する必要があります。

～IPアドレスの調べ方～

▼お使いのOSによって調べ方が異なります

Windows XP/2000の場合 ……………………………………次ページ

Windows Me/98 SEの場合……………………………………23ページ

●Windows XP/2000でのIPアドレスの調べ方

1 [コマンドプロンプト]を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIGと入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG
```

3 IPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。

```
IP Address. . . . . . . . . . . . : 192.168.0.101
Subnet Mask . . . . . . . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . . . . . : 192.168.0.101
```

確認

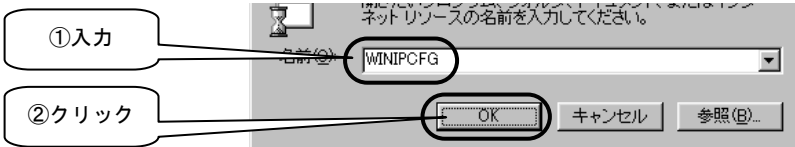
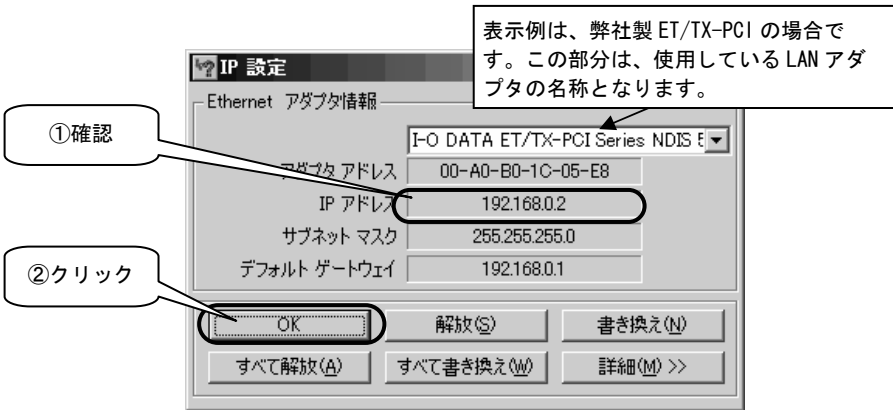
4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

```
C:¥WINDOWS>EXIT
```

5 Windowsを終了し、LANケーブルを抜きます。

●Windows Me/98 SEでのIPアドレスの調べ方

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

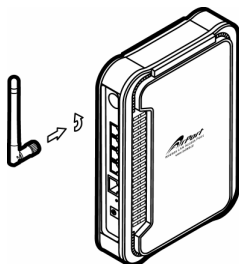
2 ［名前］に　WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

3 IPアドレスを確認して、21ページに書き込みます。
書き込んだら、[OK]ボタンをクリックします。

4 Windowsを終了して、LANケーブルを抜きます。

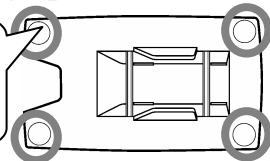
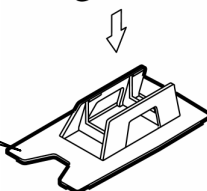
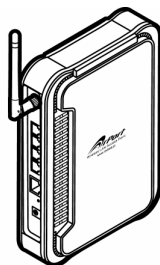
②設定用パソコンをつなぐ

本製品をパソコンに接続し、設定用パソコンの準備をします。

本製品を組み立てる

1 アンテナを取り付けます。

本製品背面のアンテナ端子に、添付のアンテナの根元を回して取り付けます。

2 本製品をスタンドに取り付けます。

①スタンド底面に添付のゴム足をつけます。

②スタンドに本製品を取り付けます。

注意！

本製品は縦置き専用です。

本製品をパソコンに接続する

ここではまだモデムを接続しないでください。

FTTH/ADSL/CATVモデムの接続は本製品の設定がすべて終了した後に行います。ここでは、本製品と設定用パソコンを１対１で接続してください。

設定用パソコンの種類を確認します。

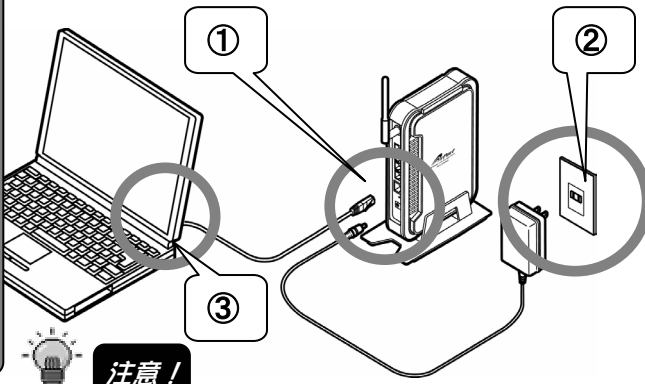
設定は、有線LAN接続または無線LAN接続のどちらからでも行えます。
設定時のトラブルを避けるため、有線LANから設定することをおすすめします。

有線LAN接続のパソコン	無線LAN接続のパソコン
下記へお進みください。	次ページへお進みください。

有線LAN接続のパソコンで設定する場合

添付のACアダプタとLANケーブルを接続します。

①本製品にACアダプタと添付のLANストレートケーブルをつなぎます。
②ACアダプタをコンセントに接続します。
③LANストレートケーブルをパソコンのLANポートにつなぎます。

注意！

- ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。
- ACアダプタを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。

以上で取り付けは終了です。【③IPアドレスを設定する】（31ページ）へお進みください。

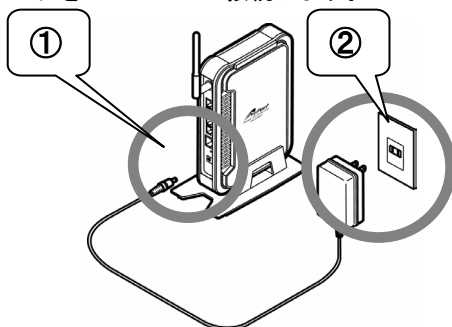
本製品をパソコンに接続する（つづき）

参考

LAN ケーブルを接続してから設定する場合は、無線 LAN の設定は必要ありません。
【③IP アドレスを設定する】（31 ページ）へお進みください。

1 添付のACアダプタを接続します。

①本製品にACアダプタをつなぎます。

②ACアダプタをコンセントに接続します。

2 無線LANアダプタを設定します。

パソコン（無線LANアダプタ）側の設定を本製品の初期値（次ページ参照）と一致させます。設定方法は無線LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。

また、28ページ以降の手順を参考にしてください。

注意！

・ACアダプタは必ず添付のものをご使用ください。
・ACアダプタを抜いた後、再度挿す場合は5秒以上待ってください。

無線LANアダプタの設定が完了したら、【③IPアドレスを設定する】（31ページ）へお進みください。

本製品をパソコンに接続する（つづき）

《パソコン(無線LANアダプタ)側の設定内容》

項目	本製品の初期値	無線LANアダプタ側で設定する値
通信モード	Infrastructure	［Infrastructure］（インフラストラクチャ)に設定
SSID (ESS-ID)	default	［default］に設定 ※大/小文字の区別あり
チャンネル	6 ch	設定の必要はありません。 ※インフラストラクチャモードで動作させる場合は、無線LANアダプタが本製品のチャンネルへ自動的に合わせるので設定の必要はありません。 ※弊社製無線LANアダプタの場合は、インフラストラクチャモードの場合、チャンネルを設定できない仕様となっています。
暗号キー (WEP Key)	無効	［無効］、「なし」に設定

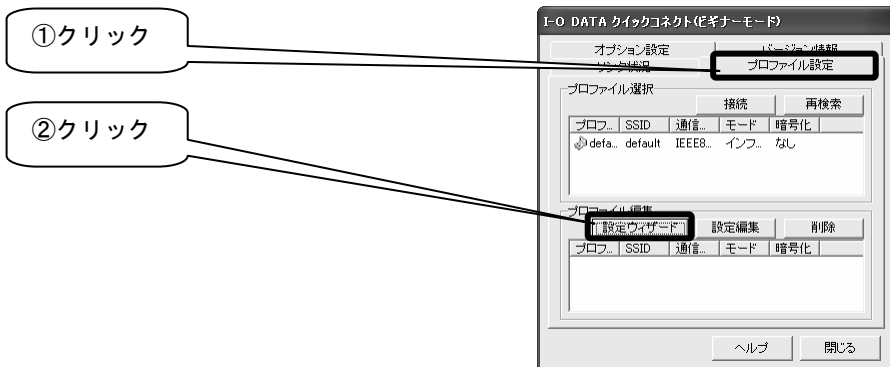
次ページ以降は、LANアダプタ側の設定例です。

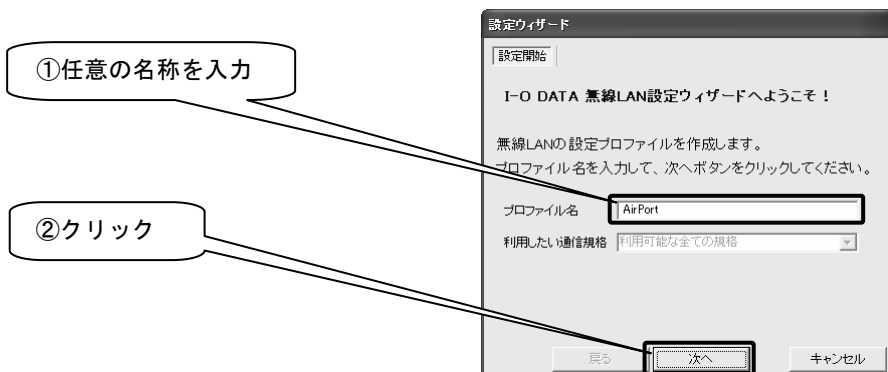
WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例････････････････**次ページ**

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例

1 **クイックコネクトを起動します。**

［スタート］→［すべてのプログラム］（［プログラム］）→
［I-O DATA 無線LAN］→［クイックコネクト］を順にクリックします。

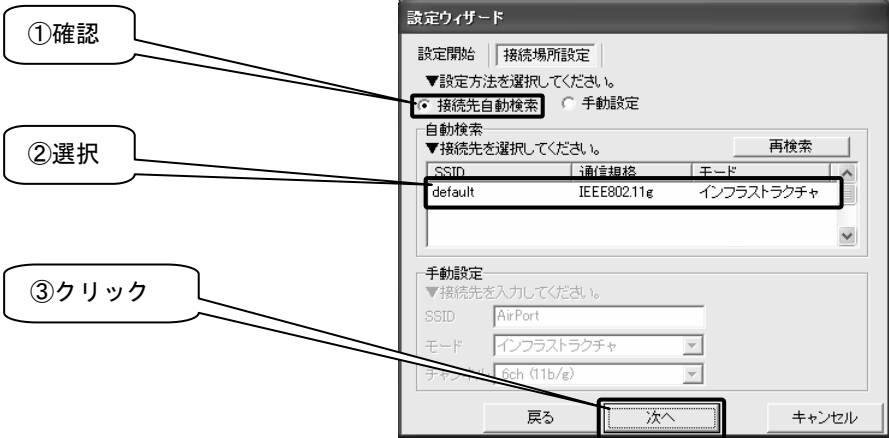
2 **［プロファイル設定］タブで、［設定ウィザード］ボタンをクリックします。**

3 **［プロファイル名］を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。**

プロファイル名は半角文字100文字(全角文字50文字)までのお好きな名前を入力できます。

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例(つづき)

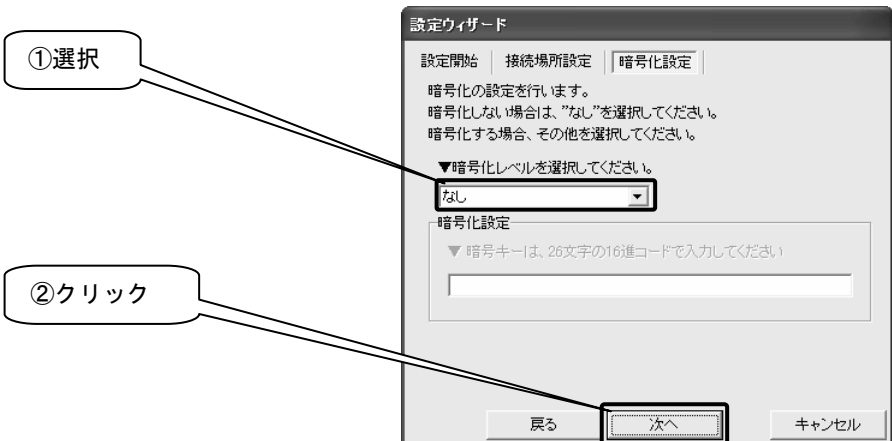
4 接続先を選びます。

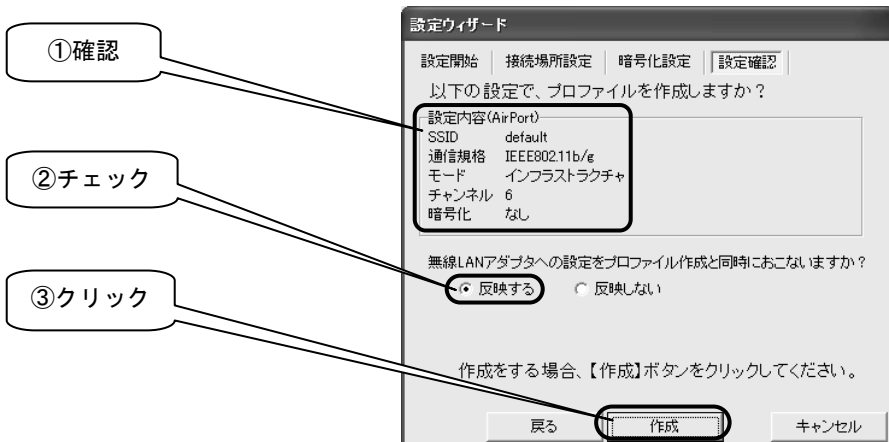
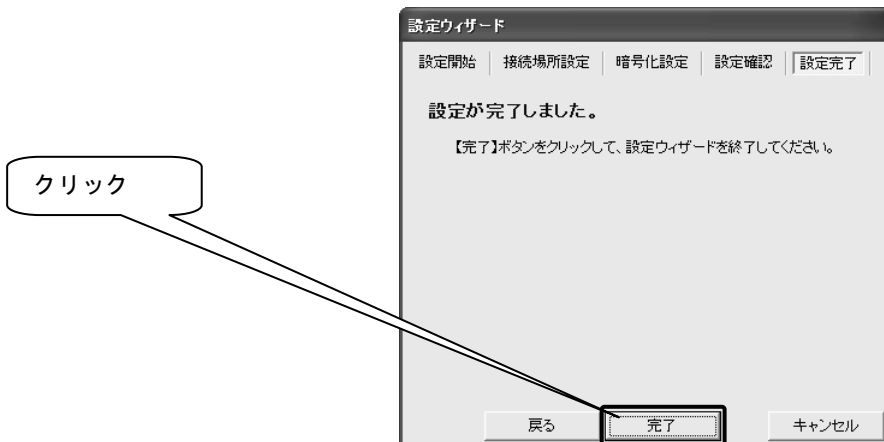
①[接続先自動検索]にチェックが付いていることを確認します。

②本製品のSSID（default）となっている接続先を選択します。

③[次へ]ボタンをクリックします。

5 暗号化設定をします。

①暗号化レベルで[なし]を選択します。

②[次へ]ボタンをクリックします。

WN-G54/CB、WN-AG/CBでの設定例(つづき)

6 設定内容を確認し、[反映する]にチェックを付けて、[作成]ボタンをクリックします。

7 [完了]ボタンをクリックします。

③IPアドレスを設定する

設定用パソコンのIPアドレスを、自動的に取得する設定（[IPアドレスを自動的に取得]、[DHCPサーバーから取得] など）に設定します。

設定用パソコンのIPアドレスを自動的に取得するように設定します。

下記の該当するページをご覧ください。

～IPアドレスの設定変更～
▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XPでIPアドレスを設定する

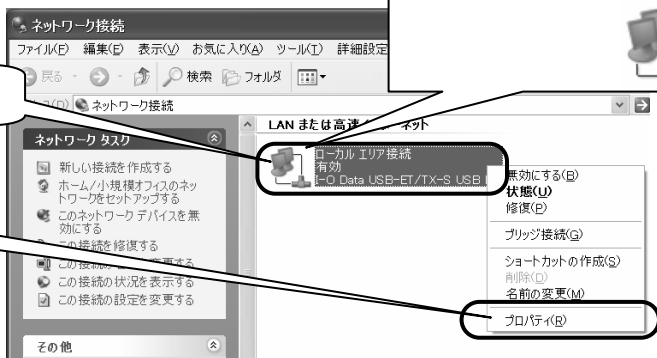
1 パソコンの電源を入れ、コンピュータの管理者のアカウントでログオンします。

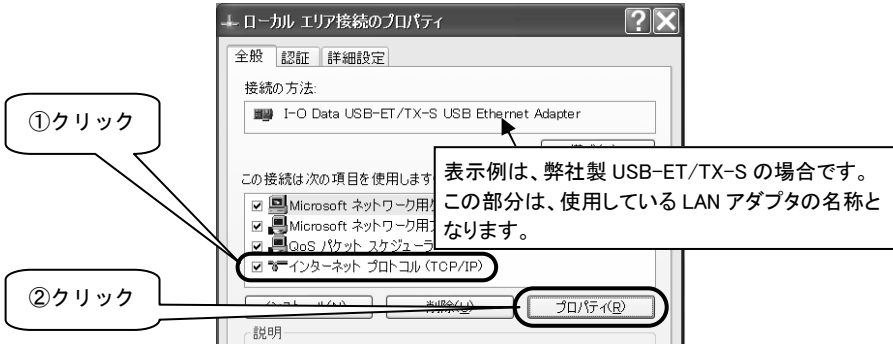
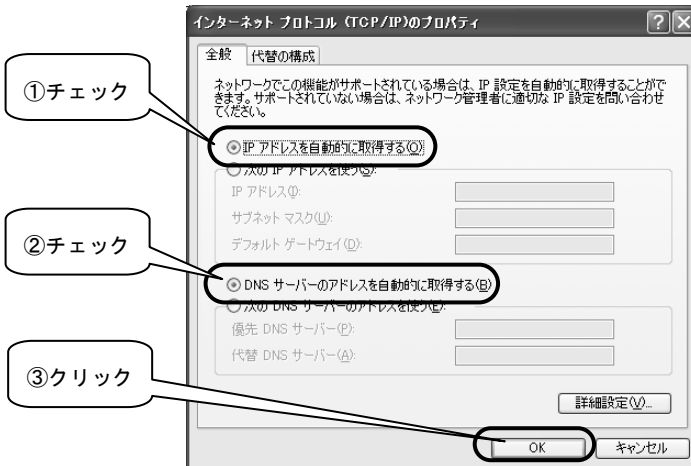
2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順5へお進みください。

4 [ネットワーク接続]をクリックします。

5 ［ローカルエリア接続］（無線LANの場合は、[ワイヤレスネットワーク接続]）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows XPでIPアドレスを設定する（つづき）

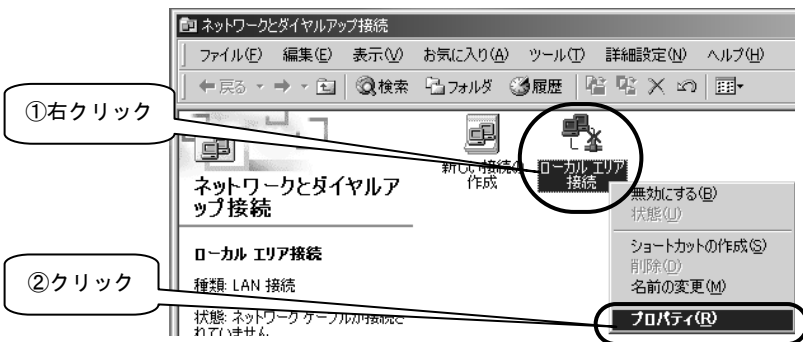
6 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

7 ［IPアドレスを自動的に取得する］と［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］にチェックして、［OK］ボタンをクリックします。

8 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

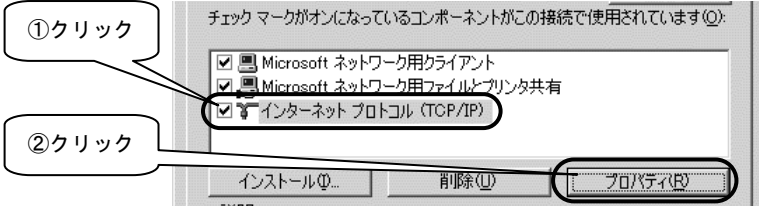
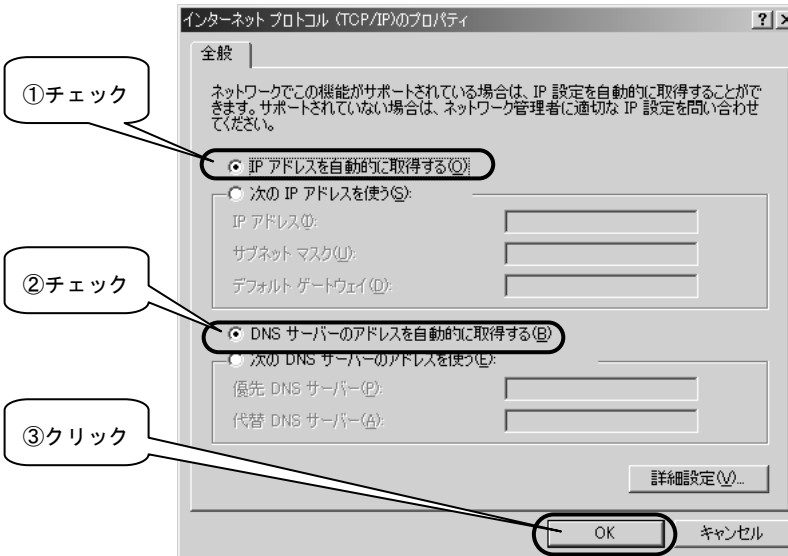
【④IPアドレスを確認する】（38ページ）へお進みください。

Windows 2000でIPアドレスを設定する

1. パソコンの電源を入れ、Administrators権限でWindows 2000にログオンします。

2. ［マイネットワーク］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

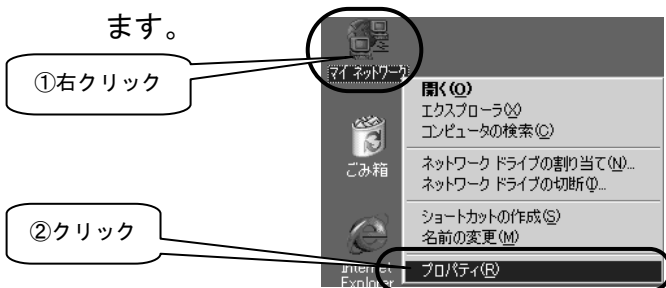
3. ［ローカルエリア接続］を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

Windows 2000でIPアドレスを設定する（つづき）

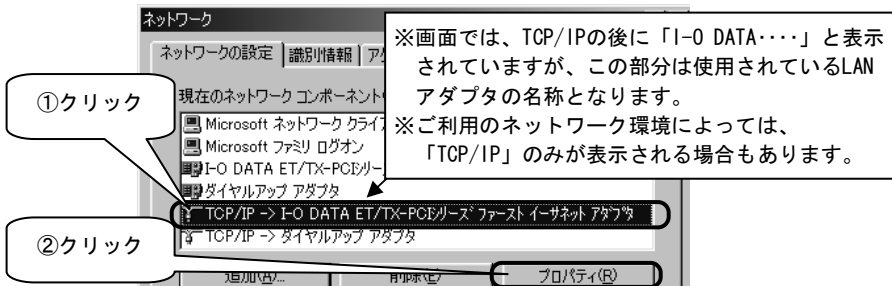
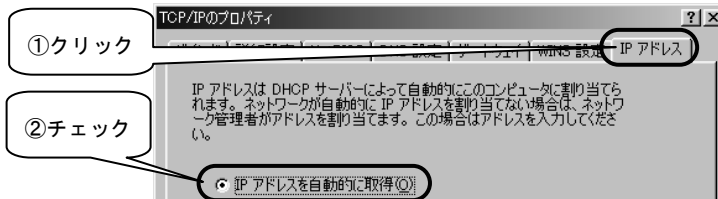
4 ［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

5 ［IPアドレスを自動的に取得する］をチェックし、［DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］をチェック後、［OK］ボタンをクリックします。

6 すべての画面を閉じて、パソコンを再起動します。

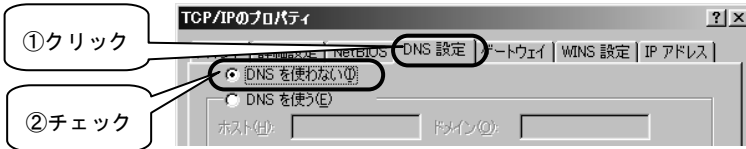
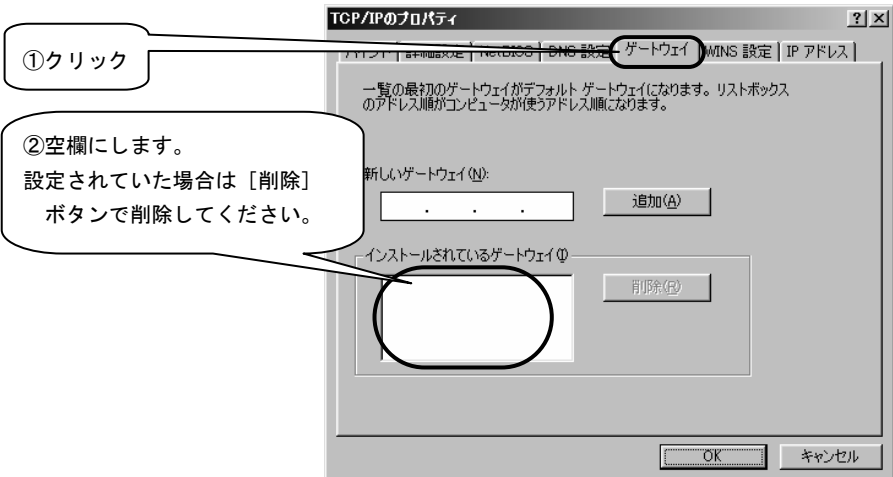
【④IPアドレスを確認する】（38ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する

1 パソコンの電源を入れ、Windowsを起動します。

2 ［マイネットワーク］（または［ネットワークコンピュータ］）を右クリックし、メニュー内の［プロパティ］をクリックします。

3 ［TCP/IP］（あるいは［TCP/IP -> xxxxxxx］）をクリックし、［プロパティ］ボタンをクリックします。

※アダプタが複数ある場合、［TCP/IPー>xxxxxxxx］と表示されます。

4 ［IPアドレス］タブをクリックして、［IPアドレスを自動的に取得］をチェックします。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを設定する（つづき）

5 ［DNS設定］タブをクリック後、[DNSを使わない]をチェックします。

6 ［ゲートウェイ］タブをクリック後、すでに設定されているゲートウェイがある場合は、［削除］ボタンで設定を削除してください。

7 ［OK］ボタンをクリック後、パソコンを再起動します。

【④IPアドレスを確認する】（38ページ）へお進みください。

④IPアドレスを確認する

設定用パソコンのIPアドレスが正しく取得できているかを確認します。

設定用パソコンのIPアドレスを確認します。

下記の該当するページをご覧ください。

～IPアドレスの調べ方～
▼お使いのOSによって設定方法が異なります

Windows XP/2000の場合 ……………………………………………………下記

Windows Me/98 SEの場合……………………………………………………40ページ

Windows XP/2000でIPアドレスを確認する

1 [コマンドプロンプト]を起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］をクリックします。

2 IPCONFIG -ALL と入力し、[ENTER]キーを押します。

```
C:¥>IPCONFIG -ALL
```

Windows XP/2000でIPアドレスを確認する(つづき)

3 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	IP Address	192.168.0.xxx　（xxx は2～32）
②	Subnet Mask	255.255.255.0
③	Default Gateway	192.168.0.1
④	DHCP Server	192.168.0.1
⑤	DNS Servers	192.168.0.1

正常に［IP Address］が取得（表示）されていない場合は…

【困った時には】の118ページをご覧ください。

参考

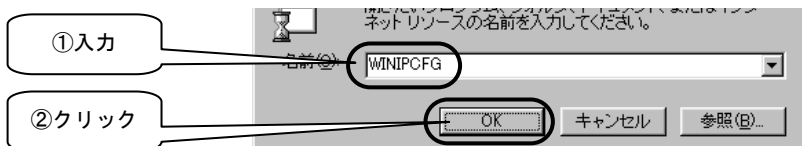
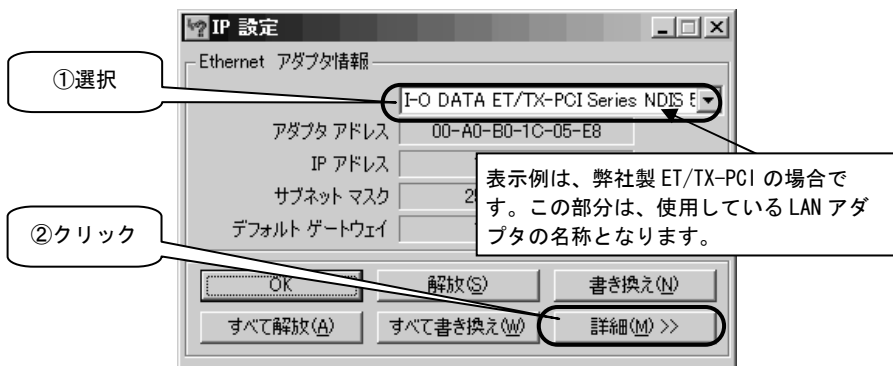
① [IP Address] …本製品から割り当てられたパソコンのIPアドレス値
② [Subnet Mask] …本製品から割り当てられたパソコンのサブネットマスク値
③ [Default Gateway] …本製品から割り当てられたパソコンのデフォルトゲートウェイ値（本製品のIPアドレスです。）
④ [DHCP Server] …本製品から割り当てられたパソコンのDHCPサーバ値（本製品のIPアドレスです。）
⑤ [DNS Servers] …本製品から割り当てられたパソコンのDNSサーバ値（本製品のIPアドレスです。プロバイダへ接続後にIPアドレスを取得した場合は、プロバイダのDNSアドレスが割り当てられます。）

4 EXIT　と入力後、[Enter]キーを押して画面を閉じます。

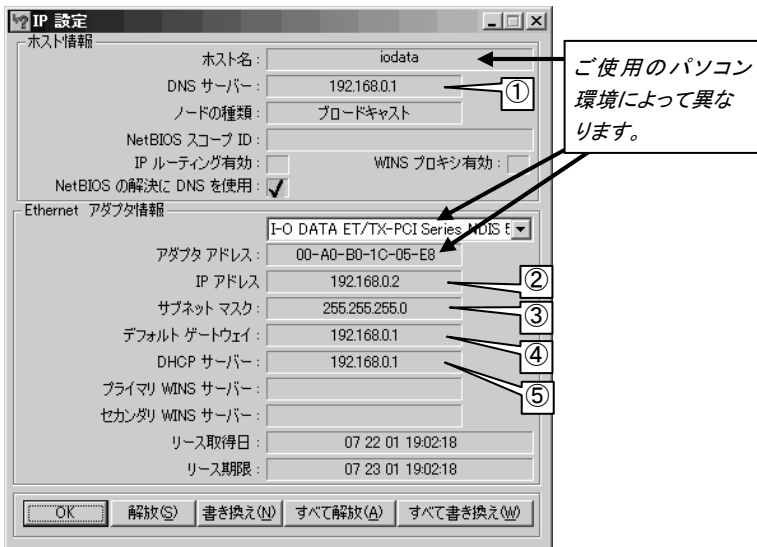
【⑤Webブラウザを設定する】（42ページ）へお進みください。

Windows Me/98 SEでIPアドレスを確認する

1 ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックします。

2 ［名前］に WINIPCFG と入力し、［OK］ボタンをクリックします。

3 お使いのLANアダプタを選択し、［詳細］ボタンをクリックします。

4 それぞれの値が下記のようになっていることを確認します。

①	DNSサーバー	192.168.0.1
②	IPアドレス	192.168.0.xxx （xxx は2～32）
③	サブネットマスク	255.255.255.0
④	デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
⑤	DHCPサーバー	192.168.0.1

Windows Me/98 SEでIPアドレスを確認する(つづき)

正常に IP アドレスが取得（表示）されていない場合は…

【困ったときには】の118 ページをご参照ください。

上記の①～⑤の値はすべて本製品から割り当てられた値（アドレス）です。
上記①、④、⑤は本製品の IP アドレスの値です。ただし、①の値は、プロバイダへ接続後に IP アドレスを取得した場合は、プロバイダの DNS アドレスが割り当てられます。

5 ［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。

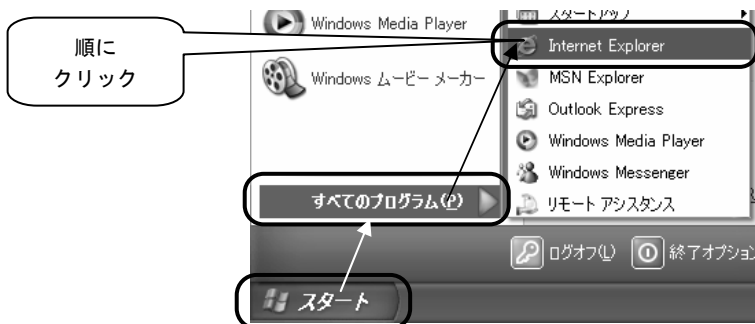
【⑤Webブラウザを設定する】（42ページ）へお進みください。

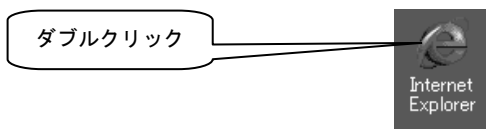
⑤Webブラウザを設定する

設定メニューを起動するために、Web ブラウザ（Internet Explorer）の接続設定をします。

1 [Internet Explorer] 画面を表示させます。

・Windows XPの場合

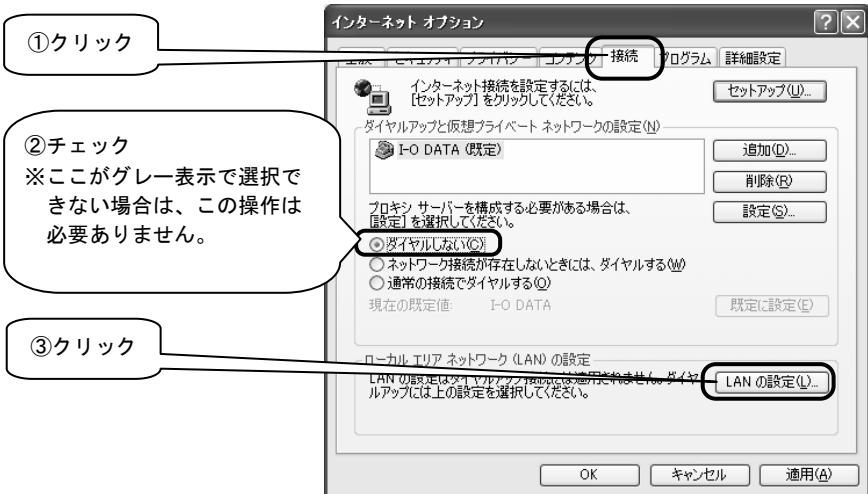
[スタート]→[すべてのプログラム]→[Internet Explorer]（または[インターネット Internet Explorer]）をクリックします。

・Windows 2000/Me/98 SEの場合

デスクトップ画面上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックします。

注意！

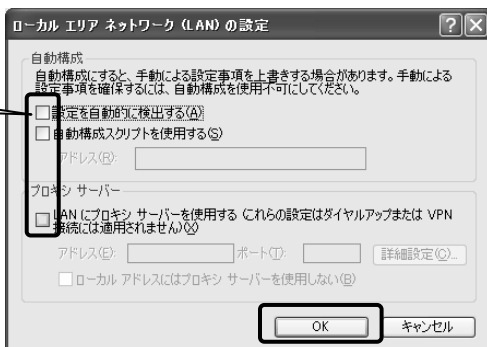
・この時点でインターネットに接続されていない場合は、「ページを表示できません」など正常に画面が表示されませんが、ここでは Internet Explorer 自体の設定を行うため、この時点で正常に画面が表示されていなくても問題ありません。
・Web ブラウザがない、あるいは Web ブラウザのバージョンが古い場合は、正常に設定できませんので、必ず Internet Explorer バージョン 5.0 以降をご用意ください。
・プロバイダによっては、プロキシについての設定を指示している場合があります。まず、プロバイダから入手した資料をご用意ください。

2 ［Internet Explorer］画面の［ツール］メニューの［インターネット オプション］をクリックします。

※本手順以降、画面は[Internet Explorer 6.0]を例にしています。

3 ［接続］タブをクリックし、［ダイヤルしない］をチェックします。続けて、［LANの設定］ボタンをクリックします。

4 プロバイダからの資料で、［プロキシ］に関する設定の指示がないか確認し、次ページの設定を行います。

⑤Webブラウザを設定する

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がない場合

●プロバイダから［プロキシ］に関する設定の指示がある場合

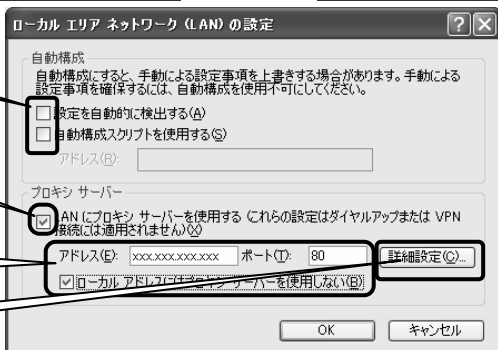
①チェックを外す

②チェックを入れる

③プロバイダの指示にしたがって設定する

④クリック

⇩

⑤本製品の IP アドレス（出荷時の場合は　192.168.0.1　）を入力

すでに他の IP アドレスを設定している場合は、;192.168.0.1　のように前に；（セミコロン）を付けて追加してください。

⑥クリック

ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定

自動構成

自動構成にすると、手動による設定事項を上書きする場合があります。手動による設定事項を確保するには、自動構成を使用不可にしてください。

設定を自動的に検出する(A)

自動構成スクリプトを使用する(S)

アドレス(R):

プロキシ サーバー

LAN にプロキシ サーバーを使用する (これらの設定はダイヤルアップまたは VPN 接続には適用されません)(X)

アドレス(E): xxx.xxx.xxx.xxx　ポート(T): 80　詳細設定(C)...

ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない(B)

OK　キャンセル

プロキシの設定

サーバー

種類　使用するプロキシのアドレス　ポート

HTTP(H)

次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N):

192.168.0.1

セミコロン (;) を使用してエントリを分けてください。

OK　キャンセル

5 ［ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定］画面で[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

6 ［インターネットオプション］（または[インターネットのオプション]）画面へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

【⑥メニュー画面を開く】（46ページ）へお進みください。

⑥メニュー画面を開く

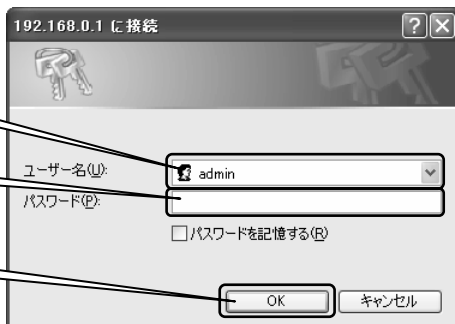
本製品を設定するためのメニュー画面を起動します。

1 Webブラウザを起動して以下を開きます。
「http://192.168.0.1/」

注意！

上記 IP アドレスは、本製品内部にある設定画面を呼び出す IP アドレスです。本製品がパソコンに LAN 接続されていれば（インターネットに接続されていなくても）呼び出すことができます。

2 以下の画面が表示されますので、下記のように入力して、[OK] ボタンをクリックします。

ユーザー名：　admin
パスワード：　（入力なし）

参考

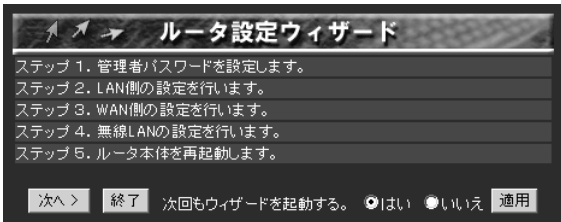
パスワードは管理者以外が設定できないようにしたり、誤って設定したりすることを防ぐためのものです。出荷時のパスワードは［空白］ですが、後で変更することをおすすめします。変更方法の詳細は、67 ページを参照してください。

【困った時には】の
116 ページを
ご参照ください。

3 以下の画面が表示された場合は、内容を確認後、［はい］ボタンをクリックします。

4 設定ウィザードと設定画面が表示されます。
この画面から各種設定を行います。

▼設定ウィザード

ルータ設定ウィザード
ステップ 1. 管理者パスワードを設定します。
ステップ 2. LAN側の設定を行います。
ステップ 3. WAN側の設定を行います。
ステップ 4. 無線LANの設定を行います。
ステップ 5. ルータ本体を再起動します。
次へ＞ 終了 次回もウィザードを起動する。 はい いいえ 適用

▼設定画面

【インターネットに接続する】（49ページ）へお進みください。

インターネットに接続する

インターネットに接続するための設定をします。

接続回線を確認する

インターネットに接続する際の回線を確認します。
接続する回線によって、設定方法が異なります。

☞ 50ページ

インターネットに接続する

本製品の設定ウィザードを使用して、インターネットに接続するための設定をします。

☞ 51ページ

接続回線を確認する

接続する回線により手順が異なりますので、インターネット接続を行うための接続回線を確認しておいてください。

●お使いの接続回線は？

下記の4種類の接続のうち、あてはまるものにチェックを付けてください。
（PPPoE認証については参考をご覧ください。）

□ **Aタイプ** IPアドレス自動取得接続(DHCPクライアント)

・PPPoE認証は行わない
・プロバイダからIPアドレスを自動で取得する

□ **Bタイプ** IPアドレス固定設定接続

・PPPoE認証は行わない
・プロバイダから固定のIPアドレスを指定されている

□ **Cタイプ** PPPoE認証によるIPアドレス自動取得接続

・PPPoE認証で接続する
・プロバイダからIPアドレスを自動で取得する

□ **Dタイプ** PPPoE認証によるIPアドレス固定設定接続

・PPPoE認証で接続する
・プロバイダから固定のIPアドレスを指定されている

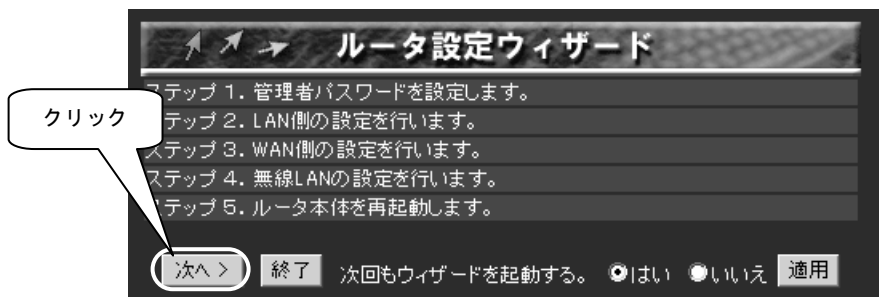
参考

●PPPoE認証について

・主なPPPoE認証を行うキャリアプロバイダ … Bフレッツ、フレッツADSL（NTT東日本、西日本）など
・主なPPPoE認証を行わないキャリアプロバイダ … アッカネットワークス、eAccess、Yahoo!BBなど

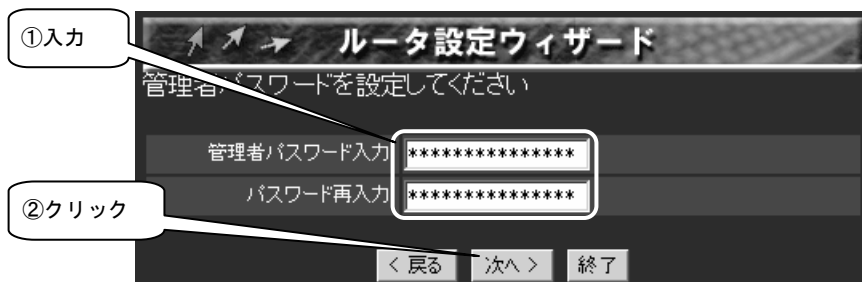
インターネットに接続する

①設定ウィザードで設定する

1 【⑥メニュー画面を開く】(46ページ)で開いた設定ウィザードで、［次へ］ボタンをクリックします。

2 管理者パスワードを設定します。

①[管理者パスワード入力]と[パスワード再入力]に同じパスワード（15文字まで）を入力します。（パスワードを設定しない場合は、入力しないでください。）

※設定したパスワードは忘れないようにしてください。

②[次へ]ボタンをクリックします。

3 [次へ]ボタンをクリックします。

【①つなぐ前に確認する】内の21ページで記入したIPアドレスが、

192.168.0.1 の場合は、下の参考をご覧ください。

21 ページで確認した IP アドレスが　192.168.0.1 だった場合

次の手順にしたがって、本製品の IP アドレスを変更してください。

①IPアドレス欄に　**192.168.254.1**　と入力します。

②[DHCPサーバ]を[有効]に設定している場合、次のように入力します。

[開始IPアドレス]に　**192.168.254.2**

[終了IPアドレス]に　**192.168.254.32**

③[次へ]ボタンをクリックします。

この後本書内で、192.168.0.1と表記されているところは、192.168.254.1と読み替えてください。

4 接続方式を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

【接続回線を確認する】(50ページ)で確認したタイプにより、下記のように選択します。選択する接続方式により設定が異なります。

タイプ	選択する接続方式
Ａタイプ	【IPアドレス自動取得接続(DHCPクライアント)】
Ｂタイプ	【IPアドレス固定設定接続】
Ｃタイプ	【PPPoE認証によるIPアドレス自動取得接続】
Ｄタイプ	【PPPoE認証によるIPアドレス固定設定接続】

●【IPアドレス固定設定接続】の場合

プロバイダからの資料にしたがって、下記を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。画面は設定例（架空のアドレス）です。

項目	説明
IPアドレス	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。
サブネットマスク	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイを入力します。
DNS(ネーム)サーバアドレスプライマリ	プロバイダから指定されたDNS(ネーム)サーバアドレスプライマリを入力します。
DNS(ネーム)サーバアドレスセカンダリ	プロバイダから指定されたDNS(ネーム)サーバアドレスセカンダリを入力します。

[次へ]ボタンをクリックして手順*5*（57ページ）へお進みください。

●[PPPoE認証によるIPアドレス自動取得接続]の場合

プロバイダからの資料にしたがって、下記を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。画面は設定例（架空のアドレス）です。

項目	説明
接続ユーザー名	プロバイダから指定された接続ユーザー名を入力します。（NTTフレッツシリーズの場合は、@からうしろもすべて入力します。）
接続パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。
パスワード再入力	確認のため、再度パスワードを入力します。

[次へ]ボタンをクリックして手順*5*（57ページ）へお進みください。

●[PPPoE認証によるIPアドレス固定設定接続]の場合

プロバイダからの資料にしたがって、下記を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。画面は設定例（架空のアドレス）です。

項目	説明
接続ユーザー名	プロバイダから指定された接続ユーザー名を入力します。（NTTフレッツシリーズの場合は、@からうしろもすべて入力します。）
接続パスワード	プロバイダから指定されたパスワードを入力します。
パスワード再入力	確認のため、再度パスワードを入力します。
IPアドレス	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

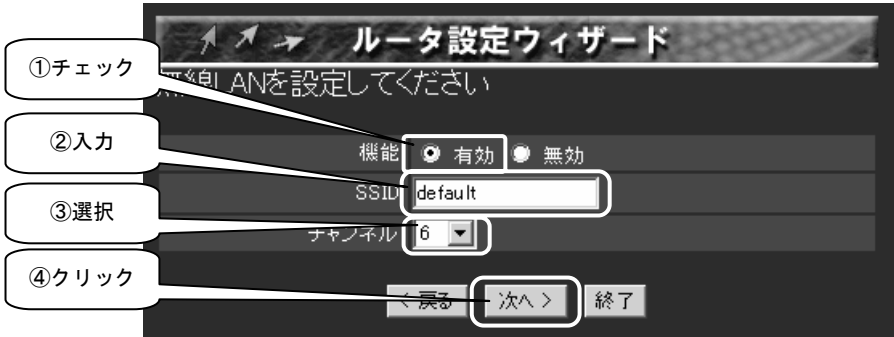
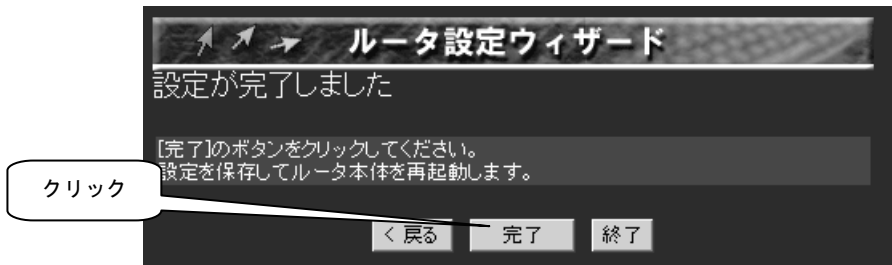
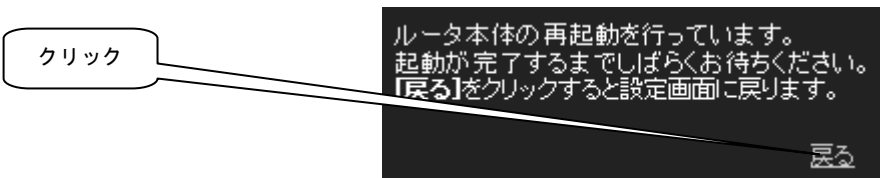
[次へ]ボタンをクリックして手順5（57ページ）へお進みください。

5 無線LANの設定をします。

①[有効]にチェックを付けます。

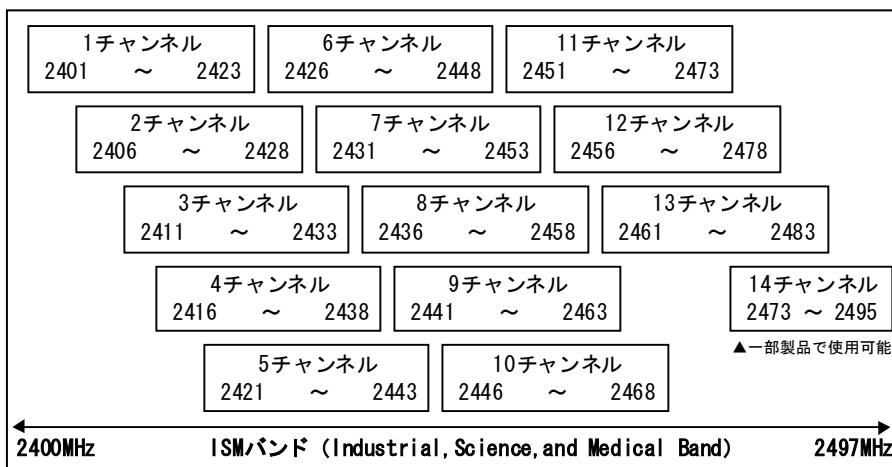
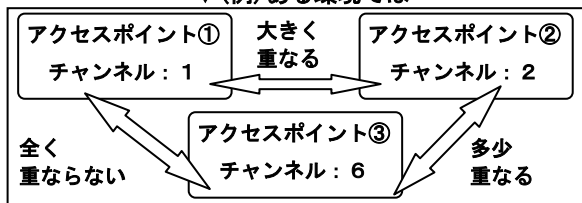
②[SSID]にお好きな名前を入力します。（半角英数文字32文字まで）

③チャンネルを設定します。（次ページの参考をご覧ください。）

④[次へ]ボタンをクリックします。

6 [完了]ボタンをクリックします。

7 [戻る]をクリックします。

【②本製品をモデムに接続する】(59ページ)へお進みください。

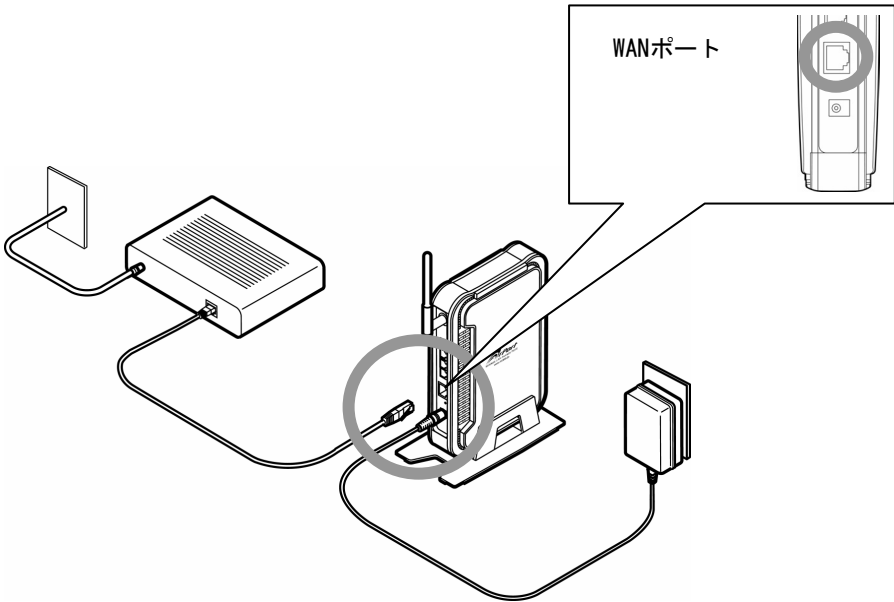
●選択するチャンネルについて

2.4GHz 帯の無線では、1～13 まで選択できます。（一部製品では 1～14 まで）
アクセスポイントを 1 台のみ使用する場合は、どのチャンネルを使用しても問題ありませんが、複数台のアクセスポイントを使用する場合、隣り合ったチャンネルは、電波の帯域が重なるため通信にロスを生じます。
電波到達範囲内で複数台のアクセスポイントを使用する場合は、下記の表をご覧になり、帯域が重ならないように設定することをおすすめします。
例）本製品を 3 台使用する場合は、それぞれ 1,6,11 チャンネルに設定

▼無線LANチャンネル一覧
（例：１チャンネルの場合、2401～2423MHzの帯域を使用します。）

▼(例)ある環境では

②本製品をモデムに接続する

1 モデムの電源が入っていることを確認します。

2 本製品のACアダプタをいったん外します。

3 本製品背面の［WANポート］にモデムのLANケーブルを接続し、ACアダプタを接続します。

・LAN ケーブルを接続してから AC アダプタを接続してください。AC アダプタを接続した後に LAN ケーブルを接続すると、本製品を正しく使用できません。
・モデムの電源が入っている状態で接続してください。
電源が入っていないと、本製品を正しく使用できません。

以上で設定は終了です。インターネットをお楽しみください。

他の設定をする

有線設定をする（有線設定）

IPアドレスの設定、パスワードの設定、時刻設定などを行います。

62ページ

無線設定をする（無線設定）

無線設定、暗号化(WEP)設定などを行います。

69ページ

現在の状態を確認する（ステータス）

本製品のステータス、ログなどを確認できます。

78ページ

ルーティングを設定する（ルーティング）

ルーティングの設定ができます。

84ページ

接続制限をする（アクセス制御）

MACフィルタ、ポートフィルタ、仮想サーバなどの設定ができます。

88ページ

本体管理をする（管理設定）

セキュアホスト、UPnPなどの設定ができます。

99ページ

設定の管理をする（メンテナンス）

設定保存や初期化、ファームウェアのバージョンアップなどができます。

101ページ

有線設定をする(有線設定)

主にIPアドレス変更などの有線関連の設定ができます。

LAN側設定

[LAN側設定]では本製品のLAN側IPアドレスの設定やDHCPサーバの動作設定を行うことができます。
また本製品のDHCPサーバが割り当てたIPアドレスのリストを参照することができます。

項目	説明
ホスト名	本製品のネットワーク上での名前を入力します。 プロバイダからコンピュータ名が指定されている場合には指定のコンピュータ名を入力します。
IPアドレス	本製品のIPアドレスを入力します。 初期値：192.168.0.1
サブネットマスク	本製品のサブネットマスクを入力します。 初期値：255.255.255.0
DHCPサーバ機能	有効：LAN側に接続したパソコンのIPアドレスを自動的に割り当てます。 無効：DHCP機能を使用しません。
開始IPアドレス	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス範囲の最初のIPアドレスを指定します。
終了IPアドレス	DHCPサーバ機能を有効にした場合に、割り当てるIPアドレス範囲の最後のIPアドレスを指定します。最大253個まで割り当てられます。
ドメイン名	必要に応じてドメイン名を入力します。 設定したドメイン名がクライアントへ割り当てられます。
リース時間	DHCPサーバからクライアントに割り当てたIPアドレスの有効期限を設定します。1/2/3時間、1/2/3日、1週間の中から選択してください。初期値：1日

ページ下部には本製品が割り当てたパソコンのコンピュータ名、IPアドレス、LANアダプタのMACアドレスのリストが表示されます。

ボタン	説明
設定	設定内容を反映するため、本製品を再起動します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

WAN側設定(IPアドレス自動取得/固定設定接続)

[WAN側設定]では本製品のWAN側ネットワークの接続形態を設定できます。
「IPアドレス自動取得/固定設定接続」ではユーザ認証作業を行わずにIPアドレスを割り当てが可能なプロバイダや、アドレス変換（NAT）を行わないネットワークとのセグメント分割用途の場合に使用します。

項目	説明
接続方法	プロバイダへの接続方法を指定します。 「IPアドレス自動取得/固定設定接続」ではユーザ認証作業を行わずにIPアドレスを割り当てが可能なプロバイダの場合に使用します。
IPアドレス	IPアドレス自動取得：プロバイダがIPアドレスを自動的に割り当てる形式の場合に使用します。 IPアドレス固定設定：プロバイダから常に使用するIPアドレスが案内されている場合に使用します。
DNS(ネーム)サーバ プライマリ	プロバイダ等から指定されている場合はここにDNSサーバアドレスを入力してください。
DNS(ネーム)サーバ セカンダリ	プロバイダ等から２つDNSサーバアドレスが指定されている場合は２つ目のDNSサーバアドレスをここに入力してください。

ボタン	説明
設定	設定内容を反映するため、本製品を再起動します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

WAN側設定(PPPoE認証接続)

[WAN側設定]では本製品のWAN側ネットワークの接続形態を設定できます。
「PPPoE認証接続」ではNTT フレッツシリーズ等、インターネット接続の際、ユーザ名、パスワードを利用してユーザ認証作業を行う必要がある場合に使用します。

LAN側設定 | WAN側設定 | パスワードの設定 | 時刻設定

項目	設定		
接続方法	PPPoE認証接続		
IPアドレス	IPアドレス自動取得		
	IPアドレス固定設定	IPアドレス	0.0.0.0
DNS(ネーム)サーバプライマリ	0.0.0.0 (オプション)		
DNS(ネーム)サーバセカンダリ	0.0.0.0 (オプション)		
接続ユーザ名	xxxxx@xxxxx.ne.jp		
接続パスワード	***********************		
パスワード再入力	***********************		
オンデマンド接続	有効 無効		
無通信タイムアウト	10 分		
MTU値	1362 バイト		

設 定　キャンセル

項目	説明
接続方法	プロバイダへの接続方法を指定します。 「PPPoE認証接続」では接続時、プロバイダへユーザ認証作業を行い、IPアドレスを割り当てが可能なプロバイダの場合に使用します。
IPアドレス	IPアドレス自動取得：プロバイダがIPアドレスを自動的に割り当てる形式の場合に使用します。 IPアドレス固定設定：プロバイダから常に使用するIPアドレスが案内されている場合に使用します。
DNS(ネーム)サーバプライマリ	プロバイダ等から指定されている場合はここにDNSサーバアドレスを入力してください。
DNS(ネーム)サーバセカンダリ	プロバイダ等から２つDNSサーバアドレスが指定されている場合は２つ目のDNSサーバアドレスをここに入力してください。
接続ユーザ名	プロバイダ指定のユーザ名を入力します。基本的にプロバイダの接続マニュアルに記載のユーザ名と同じものを入力してください。 NTTフレッツシリーズの場合には、@から後ろもすべて入力してください。
接続パスワード	プロバイダ指定の接続パスワードを入力します。
パスワード再入力	確認のためプロバイダ指定の接続パスワードを再入力します。
オンデマンド接続	有効：インターネット利用時のみプロバイダと接続する場合に設定します。 無効：手動で接続する場合に設定します。
無通信タイムアウト	自動切断を行う時間を設定します。 ブラウザやメールが全く通信を行っていない場合、この項目で設定した時間を超えると自動的に切断します。 ※0に設定すると切断されなくなります。 初期値：10分
MTU値	IPパケットデータのサイズを表します。MTU値が小さすぎると、パケットサイズが減って通信するパケット量が増大し、結果的にヘッダ部分の占めるデータ量が増えるため、ADSLなどのブロードバンド環境で効果を発揮できなくなります。 初期値：1362

ボタン	説明
設定	設定内容を反映するため、本製品を再起動します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

パスワードの設定

[パスワードの設定]では、ユーザパスワードを設定することができます。

これらのパスワードは、本製品を設定・管理するために使用します。

項目	説明
管理者	管理者が、本製品にログオンするために使用するパスワードを入力します。パスワードは、確認のため再度入力が必要です。
ユーザー	ユーザが、本製品にログオンするために使用するパスワードを入力することができます。パスワードは、確認のため再度入力が必要です。 ※ユーザによるルータ機能の設定はできません。設定画面の参照のみできます。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

時刻設定

［時刻設定］では本製品のリアルタイムの時間、および日付設定、時間帯の選択、タイムサーバの指定が可能です

項目	説明
現在の時刻	現在設定されている時刻を表示します。
タイムサーバ	インターネット上に公開されているタイムサーバと時刻同期を行う場合にタイムサーバ（NTPサーバ）のIPアドレスまたはURLを入力します。 同期間隔：60分
時刻の設定	現在の日付、時刻を設定します。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

無線設定をする(無線設定)

主に無線関連の設定（WEPなど）ができます。

無線設定

基本設定

[基本設定]では、[無線LAN機能を有効/無効]、[SSIDの入力]、[無線通信用チャンネルの設定]をすることができます。

項目	説明
機能	有効：本製品の無線機能を有効に設定します。 無効：本製品の無線機能を無効に設定します。
SSID	SSIDを設定します。半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。） 複数のアクセスポイントがあり、自動的に電波の強いアクセスポイントへ接続を切り替えるローミング機能を使用する場合は、すべてのアクセスポイントのSSIDを統一します。 グループ毎にアクセスポイントを分ける場合などは、アクセスポイント毎に別のSSIDを設定してください。設定後、本製品と通信する無線LAN製品は、すべてその値を設定してください。
チャンネル	通信チャンネル（使用する電波の周波数帯域を分割して、それぞれの帯域に番号を割り当てたもの）の設定を行います。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。 本製品以外にアクセスポイントやアクセスポイント内蔵機器がある場合にのみ、それぞれのネットワークで別々の通信チャネルの値を設定してください。（電波の干渉を防ぐため５チャンネル間隔を空けることをおすすめします。詳しくは58ページの参考をご覧ください。） 初期値：６　　　　設定値：　１～１３

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

注意！

- 初期設定では無線LAN製品（弊社製「WN-AG/CB」や「WN-G54/CB」等）側の［SSID］の設定を［ANY］とした場合、本製品で設定したSSIDの値にかかわらず、無線でアクセスできるようになります。不正アクセスを防ぐためにも、通信の暗号化や通信できるパソコンを制限することをおすすめします。
- 本製品にアクセスする無線LANは、すべて同じSSIDにしてください。
- SSIDは半角英数字で32文字まで入力できます。(大文字、小文字の区別もあります。)
- SSIDは、ご購入時[default]に設定されていますが、セキュリティのため、変更することをおすすめします。
- SSIDやチャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線LANグループの通信が来てしまいます。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

WEP

無線LANの暗号化の標準であるWEP (Wired Equivalent Privacy) での暗号化を行うことによって、通信傍受の危険を回避することができます。

<table>
<tr><th>項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>機能</td><td>有効：暗号化を有効にします。
無効：暗号化を無効にします。</td></tr>
<tr><td>入力形式</td><td>入力方法を設定します。(16進数、ASCII)</td></tr>
<tr><td>キーの長さ</td><td>64(40)ビットより128(128)ビットの方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下する場合があります。
[64(40)ビット]
送受信するデータを64ビットで暗号化します。
[128(104)ビット]
送受信するデータを128ビットで暗号化します。</td></tr>
<tr><td>キー1～4</td><td>16進数　：0～9またはA～Fの文字列を入力します。
ASCII　：半角英数字を入力します。
<table><tr><td></td><td>ASCII</td><td>16進数</td></tr><tr><td>64bit</td><td>5文字</td><td>10文字</td></tr><tr><td>128bit</td><td>13文字</td><td>26文字</td></tr></table>無線LANアダプタなど通信相手側と同じ暗号キーを入力する必要があります。暗号化の設定方法は次ページ以降を参照してください。</td></tr>
</table>

※ServicePack 1にアップグレードしていないWindows XPでは、[キーの長さ]と[キーのインデックス]が、弊社Web設定の標記と異なります。それぞれ以下のように読み替えてください。

40ビット=64ビット、104ビット＝128ビット

キー0=キー1、キー1=キー2、キー2=キー3、キー3=キー4

●暗号化(WEP)の設定例について説明します。

・本製品を無線LAN接続パソコンで設定している場合は、暗号キーを変更後、以前の無線LAN設定と異なるため、通信できなくなります。
その場合、無線LAN接続設定用パソコンの暗号キー設定を、変更した内容に合わせれば接続できます。ただし、変更した内容を忘れた場合など、本製品に接続できなくなった場合は、有線LANから接続しなおすか、本製品を出荷時状態に戻す必要がありますので、設定する暗号キーはメモすることをおすすめします。
有線LANアダプタがある場合には、有線LAN接続したパソコンから設定することをおすすめします。

1 [機能]で[有効]にチェックをつけ、［入力形式］［キーの長さ]を選びます。

①[機能]では、[有効]にチェックをつけます。
①[入力形式]では、[16進数]と[ASCII]から選びます。
②[キーの長さ]では、暗号キーの長さ[64(40)ビット][128(104)ビット]から選びます。

[64(40)ビット]より[128(104)ビット]の方がより高いセキュリティレベルを確保できますが速度は低下する場合があります。
また、ご使用の無線LAN製品によっては、[128bit(104)ビット]に対応していない製品(弊社製WN-B11/USB、WN-B11/PRSなど)があります。

2 **下記の表にしたがって、［キー１］に暗号キーを入力します。**

[16 進数]で［64(40)ビット］キーの設定例（10 桁の 16 進数）

例）0123456789

[16 進数]で［128(104)ビット］キーの設定例（26 桁の 16 進数）

例）01234567890123456789012345

入力形式	16進数　：0～9またはA～Fの文字列 ASCII　：半角英数字
キーの長さ	ASCII　16進数 64bit　5文字　10文字 128bit　13文字　26文字

すでに無線LANの暗号キーをお使いで、そのキーに合わせる場合は、そのキーを入力してください。
はじめて暗号キーを設定する場合などは、キーを入力後、キーの種類とキー自体をメモしてください。このキーは他の無線LANアダプタ側に設定するために必要です。

▼入力したキーをメモしてください。

キー１	

メモした暗号キーは、無線 LAN アダプタで暗号化を行う際に使用します。
本製品ではパスフレーズによる暗号化はできませんので、必ず無線 LAN アダプタ側では、[16 進数] や[ASCII]による暗号化キーを使用してください。

3 **画面下の［設定］ボタンで設定を保存します。**

クリック

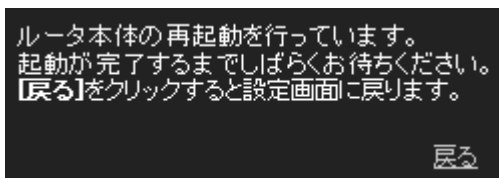
設　定　キャンセル　クリア

4 **以下の画面が表示され、本製品が再起動します。**

無線LANから設定した場合は、WEPを変更したため通信は途絶えます。

ここで設定画面は終了できます。

ルータ本体の再起動を行っています。
起動が完了するまでしばらくお待ちください。
[戻る]をクリックすると設定画面に戻ります。

戻る

5 **無線LANアダプタの設定を本製品の設定にあわせます。**

無線LANアダプタ側での暗号化の設定は、各無線LANアダプタによって異なります。それぞれの取扱説明書をご覧ください。

これで暗号化設定はできました。

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN シリーズでは、暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WN シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。
〈例〉 文字で ″WNG54″ と設定している場合、
16進コードでは [57 4e 47 35 34] となります。

<table>
<tr><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th><th>文字</th><th>16進</th></tr>
<tr><td>!</td><td>21</td><td>0</td><td>30</td><td>?</td><td>3f</td><td>N</td><td>4e</td><td>]</td><td>5d</td><td>l</td><td>6c</td><td>{</td><td>7b</td></tr>
<tr><td>″</td><td>22</td><td>1</td><td>31</td><td>@</td><td>40</td><td>O</td><td>4f</td><td>^</td><td>5e</td><td>m</td><td>6d</td><td>|</td><td>7c</td></tr>
<tr><td>#</td><td>23</td><td>2</td><td>32</td><td>A</td><td>41</td><td>P</td><td>50</td><td>_</td><td>5f</td><td>n</td><td>6e</td><td>}</td><td>7d</td></tr>
<tr><td>$</td><td>24</td><td>3</td><td>33</td><td>B</td><td>42</td><td>Q</td><td>51</td><td>`</td><td>60</td><td>o</td><td>6f</td><td>~</td><td>7e</td></tr>
<tr><td>%</td><td>25</td><td>4</td><td>34</td><td>C</td><td>43</td><td>R</td><td>52</td><td>a</td><td>61</td><td>p</td><td>70</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>&</td><td>26</td><td>5</td><td>35</td><td>D</td><td>44</td><td>S</td><td>53</td><td>b</td><td>62</td><td>q</td><td>71</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>’</td><td>27</td><td>6</td><td>36</td><td>E</td><td>45</td><td>T</td><td>54</td><td>c</td><td>63</td><td>r</td><td>72</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>(</td><td>28</td><td>7</td><td>37</td><td>F</td><td>46</td><td>U</td><td>55</td><td>d</td><td>64</td><td>s</td><td>73</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>)</td><td>29</td><td>8</td><td>38</td><td>G</td><td>47</td><td>V</td><td>56</td><td>e</td><td>65</td><td>t</td><td>74</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>*</td><td>2a</td><td>9</td><td>39</td><td>H</td><td>48</td><td>W</td><td>57</td><td>f</td><td>66</td><td>u</td><td>75</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>+</td><td>2b</td><td>:</td><td>3a</td><td>I</td><td>49</td><td>X</td><td>58</td><td>g</td><td>67</td><td>v</td><td>76</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>,</td><td>2c</td><td>;</td><td>3b</td><td>J</td><td>4a</td><td>Y</td><td>59</td><td>h</td><td>68</td><td>w</td><td>77</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>-</td><td>2d</td><td><</td><td>3c</td><td>K</td><td>4b</td><td>Z</td><td>5a</td><td>I</td><td>69</td><td>x</td><td>78</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>.</td><td>2e</td><td>=</td><td>3d</td><td>L</td><td>4c</td><td>[</td><td>5b</td><td>j</td><td>6a</td><td>y</td><td>79</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>/</td><td>2f</td><td>></td><td>3e</td><td>M</td><td>4d</td><td>¥</td><td>5c</td><td>k</td><td>6b</td><td>z</td><td>7a</td><td></td><td></td></tr>
</table>

高度な設定

[高度な設定]では、無線機能の詳細設定することができます。通常は初期値が適正値であり、変更の必要はありません。

項目	説明
ビーコン間隔	ビーコンの間隔を1ms～1000msで設定します。ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。
RTSスレッショルド	RTSパケットのサイズを256～2432で設定します。 アクセスポイントは実際のデータを送信する前に、RTS(送信要求)パケットを送信して、データを送信して良いか確認しています。電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、頻繁にRTSパケットが送出されるので、一般にスループットは低下します。
フラグメンテーションスレッショルド	パケットが断片化される時のパケットサイズを256～2346(偶数のみ)で設定します。 電波状況が悪い場所では値を低めに設定すると効果的ですが、一般にスループットは低下します。

項目	説明
DTMインターバル	ビーコンに対し、どの程度の間隔でDTIMを挿入するかを1～255の間隔で設定します。 DTIM（delivery traffic indication message）とは省電力モードの無線クライアントに対して、パケットが送信待ちであることを伝えるメッセージのことです。DTIMはビーコンに含まれて送信されています。 例えば“2”と設定すると、DTIMが含まれたビーコンと含まれていないビーコンが交互にアクセスポイントから送信されるようになります。
送信レート(Mbps)	データを送受信する際に、使用できる速度を設定できます。通常、「自動」から変更する必要はありません。 万が一従来の無線LAN製品と接続できない場合、速度を固定することによって接続できる場合があります。
認証方式	暗号化(WEP)の際に使用される認証方式を選択します。 Open System…開放型認証方式 Shared Key…共有鍵式認証方式
802.11g専用モード	有効に設定すると、IEEE802.11gでのみ接続されるようになります。IEEE802.11bによる速度の低下を抑えます。 このとき、IEEE802.11b無線LANアダプタとは接続できなくなります。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

現在の状態を確認する(ステータス)

本製品の現在の状態などを確認できます。

ステータス

デバイス情報

[デバイス情報]では、[LANポート]、[無線LAN]、[WANポート]の設定を表示することができます。

【LANポート】

項目	説明
MACアドレス	本製品のLAN側のMACアドレスを表示します。
IPアドレス	本製品に割り当てられているIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	本製品に割り当てられているサブネットマスクを表示します。
DHCPサーバ	「DHCPテーブル」をクリックすると、本製品のDHCPサーバが割り当てたDHCPクライアント情報を表示します。

【無線LAN】

項目	説明
状態	本製品の無線LAN機能が有効かどうかを表示します。 無効と表示されている場合、無線通信できません。
SSID	本製品に設定されているSSIDを表示します。
チャンネル	本製品に設定されている無線のチャンネルを表示します。
WEP	本製品のWEP（暗号化）が有効かどうかを表示します。

【WANポート】

項目	説明
MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスを表示します。
接続	本製品のWAN側の接続状態を表示します。 WAN側の接続形態により以下の操作が実行可能です。 ・IPアドレス自動接続の場合 [DHCP解放]IPアドレスの解放 [DHCP取得]IPアドレスの再取得 ・PPPoE認証接続の場合 [接続]プロバイダへの接続 [切断]プロバイダからの切断
IPアドレス	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているサブネットマスクを表示します。
デフォルト ゲートウェイ	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているデフォルトゲートウェイを表示します。
DNS(ネーム)サーバ	現在、WAN側にてプロバイダから取得または手動設定されているDNS(ネーム)アドレスを表示します。

ログ

［ログ］では、ルータシステムの［統計］、［状況］、［作業の実行ログ］を表示することができます。ログは、最高200までのエントリを表示します。古いエントリは、新しいエントリに上書きされます。ログ画面のコマンドは、以下の通りです。

デバイス情報 | ログ | ログの設定 | 統計情報 | 無線情報

最初へ　前へ　次へ　最後へ　ログをクリア　情報の更新

page 8 of 20

時刻	メッセージ	送信元	送信先	備考
Mar/21/2003 15:29:57	DHCP Discover			
Mar/21/2003 15:29:58	DHCP Discover no response			
Mar/21/2003 15:30:28	DHCP Discover			
Mar/21/2003 15:30:56	Wireless PC connected			00-A0-B0-76-C9-F7
Mar/21/2003 15:30:59	DHCP lease IP 192.168.0.3 to pc01			00-A0-B0-76-C9-F7

ボタン	説明
最初へ	ログの最初のページを表示します。
前へ	現在のページのすぐ前のページを表示します。
次へ	現在のページのすぐ後のページを表示します。
最後へ	ログの最後のページを表示します。
ログをクリア	ログの内容を削除し、新しいログを開始します。
情報の更新	ログの統計を更新します。

項目	説明
時刻	ログが記録された時刻を表示します。
メッセージ	接続情報や本体情報など現在の状態を表示します。
送信元	ログに表示されたパケットの送信元を表示します。
送信先	ログに表示されたパケットの宛先を表示します。
備考	LANアダプタへIPアドレスを割り当てたり、無線接続が確立した際、LANアダプタのMACアドレスを表示します。

ログの設定

[ログの設定]では、ルータのログパラメータを設定することができます。

項目	説明
SYSLOGサーバ	SYSLOGサーバソフトが起動しているパソコンのIPアドレスを指定します。 パソコンがDHCPサーバからIPアドレスを取得している場合などIPアドレスが固定ではない場合、ブロードキャストアドレスを指定することもできます。 【ブロードキャストアドレスの例】 255.255.255.255 すべてのIPアドレス宛に送信します。 192.168.0.255 192.168.0.xxxの範囲すべてに送信します。 ※ブロードキャストアドレスを指定した場合はネットワークの負荷が大きくなりますので、企業内ネットワークなどでは特定のIPアドレス宛に送信することを推奨します。
ログの種類	システム情報：本製品の動作に関する情報を表示します。 デバッグ情報：エラーや誤動作に関する情報を表示します。 攻撃情報：ネットワーク上の不正(悪質)なアクセスに関する情報を表示します。 ドロップパケット：正常に転送できなかったパケットに関する情報を表示します。 参考情報：システムの管理者からの重要な通知を表示します。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

統計情報

[統計情報]では、[ルータ]、[LAN]、[無線LAN]、[WANポート経由でのパケット伝送率（バイト／秒）]を示すテーブルを表示します。

項目	説明
利用状況	パケット伝送統計を受信と送信に分類します。 最大：記録を開始してから記録されたパケット伝送の最大値をあらわします。 平均：記録を開始してからの全てのパケット伝送の平均値をあらわします。

ボタン	説明
クリア	全統計を消去し、ログ統計を再度開始します。

無線情報

[無線情報]では、本製品の無線LANインターフェイスに接続する無線機器に関する情報を表示することができます。

項目	説明
接続時刻	無線LAN機器が、本製品の無線インターフェイス部分と接続を確立した時刻を表示します。
MACアドレス	接続されている無線LANアダプタのMACアドレスを表示します。

ルーティングを設定する(ルーティング)

ルーティングの設定をします。
(通常は設定する必要はありません。)

ルーティング

スタティックルート

[スタティックルート]では使用中のネットワークが静的IPアドレスを持つ場合に、ルータがデータを宛先ネットワークに転送するパラメータを設定することができます。

スタティックルート | ダイナミックルート | ルーティングテーブル

ネットワーク アドレス
ネットワーク マスク
ゲートウェイ アドレス
ポート LAN
メトリック

追加 修正 削除 クリア

ネットワーク アドレス	ネットワーク マスク	ゲートウェイ アドレス	ポート	メトリック
172.16.11.0	255.255.0.0	172.16.11.1	WAN	1

項目	説明
ネットワークアドレス	インターネット接続にネットワークが使用する静的IPアドレスを入力します。詳しくは、プロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。
ネットワークマスク	使用中のネットワークのサブネットマスクを入力します。 ここに値が入力されない場合、省略値として255.255.255.255をとります。詳しくは、プロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。
ゲートウェイアドレス	使用中のネットワークのゲートウェイアドレスを入力します。 詳しくは、プロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。

項目	説明
ポート	インターネット接続に使用するインターフェイス（WANまたはLAN）を選択します。
メトリック	宛先ネットワークに到達するためにルートを使用するときのコストを示し、普通はIP宛先までにホップ数で表されます。LAN内では常にホップ数は1であり、その後はルータを経由するたびにホップ数が１つずつ増えます。同じ宛先に対して複数のルートがあり、メトリックが異なる場合はメトリックが最小のルートが選択されます。

ページ下部には設定したスタティックルーティング情報のリストが表示されます。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ダイナミックルート

[ダイナミックルート]では、NATパラメータの設定とRIP(Routing Information Protocol)に対応したルータ同士で動的なルーティングを行うための設定ができます。

項目	説明
NAT/IPマスカレード	有効：LANで使用しているプライベートIPアドレスをインターネットで使用するグローバルIPへ変換します。 本製品でインターネット接続を行う場合は、有効にします。 無効：複数のLANを接続し、ローカルルータとしてパケットの制御を行う場合に設定します。
送信	無効：RIPの情報を本製品から送信しません。 RIP1：RIP1の情報を本製品から送信します。 RIP2：RIP2の情報を本製品から送信します。
受信	無効：RIPの情報を他のルータから受信しません。 RIP1：RIP1の情報を他のルータから受信します。 RIP2：RIP2の情報を他のルータから受信します。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存し、本製品を再起動します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

ルーティングテーブル

［ルーティングテーブル］では、ルータのルーティングテーブルを表示することができます。ルーティングテーブルは、ネットワーク相互接続形態を表示するルータによって作成されたデータベースです。

項目	説明
ネットワークアドレス	連結ノードのネットワークIPアドレスを表示します。
ネットワークマスク	連結ノードのサブネットマスク を表示します。
ゲートウェイアドレス	連結ノードのゲートウェイアドレスを表示します。
ポート	ノードが、WAN と LANのどちらを経由して接続されているかを表示します。
メトリック	連結ノードのメトリックを表示します。
タイプ	ノードのルーティングテーブルが、静的（スタティック）と動的（ダイナミック）のどちらで生成されたかを表示します。

接続制限をする（アクセス制御）

本製品やインターネットへのアクセス制限をします。

アクセス制御

MACフィルタ

[MACフィルタ]では、有線および無線LANアダプタのMACアドレスごとに、本製品への接続の拒否をすることによって、特定のパソコンのみと接続できようにします。

【MACアドレスフィルタ】

項目	説明
有効	MACアドレスフィルタ機能を有効にします。 有効にするとMACアドレスを登録した無線/有線LANアダプタ以外は通信できなくなります。
無効	MACアドレスフィルタ機能を無効にします。

【MACアドレステーブル】

項目	説明
名前	通信可能なLANアダプタの名称を任意の名称で入力します。
MACアドレス	接続を許可するパソコン（LANアダプタ）のMACアドレスを２桁ずつ入力します。 例）　[xx]-[xx]-[xx]-[xx]-[xx]-[xx]
接続タイプ	有線LAN：接続許可するLANアダプタが有線の場合チェックします。 無線LAN：接続許可するLANアダプタが無線の場合チェックします。

ページ下部にはMACアドレスフィルタで登録したLANアダプタのリストが表示されます。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

ポートフィルタ

[ポートフィルタ]では、作成する通信プロトコルリストに基づきインターネットアクセスを拒否することができます。

【ポートフィルタ】

項目	説明
有効	ポートフィルタ機能を有効にします。
無効	ポートフィルタ機能を無効にします。

【ポートフィルタの編集】

項目	説明
項目	有効：ポートフィルタに追加/編集する項目を動作させる場合にチェックします。 無効：ポートフィルタに追加/編集する項目を追加のみで動作させない場合にチェックします。
名前	ポートフィルタに追加する項目の名前として任意の名称で入力します。
プロトコル	ポートフィルタで使用されるプロトコルの種類（TCP/UDP/ICMP）を選択します。
ポート番号	ポートフィルタで使用されるポートの範囲を入力します。

ページ下部にはポートフィルタで登録したリストが表示されます。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

IPフィルタ

[IPフィルタ]ではIPアドレスの範囲指定をして、その範囲のIPアドレスでのインターネット接続をできなくすることができます。

項目	説明
項目	有効：IPフィルタに追加/編集する項目を動作させます。 無効：IPフィルタに項目を追加/編集するのみで、動作させません。
開始IPアドレス	フィルタリングするIPアドレス範囲の開始IPアドレスを入力します。
終了IPアドレス	フィルタリングするIPアドレス範囲の終了IPアドレスを入力します。

ページ下部にはIPフィルタで登録したリストが表示されます。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

仮想サーバ

［仮想サーバ］設定では、Webサーバ・FTPサーバ・e-mailサーバなどを自設する場合に、該当のサービスポートとプライベートIPアドレスを設定して、使用できます。［サーバIPアドレス］は固定で使用してください。（DHCPで割り当てる範囲外のIPアドレスとしてください。）

項目	説明
項目	有効：仮想サーバに追加する項目を動作させます。 無効：仮想サーバに項目を追加するのみで、動作させません。
名前	仮想サーバに追加する項目の任意の名前を入力します。
プロトコル	仮想サーバで使用されるプロトコルの種類（TCP/UDP/＊）を選択します。（＊：プロトコルの判別をしない）
LANポート番号	WebサーバやFTPサーバなど、公開するサーバで使用するポート番号を指定します。
WANポート番号	WebサーバやFTPサーバなどを公開した際、WAN側からどのポート番号でアクセスされた場合の仮想サーバを有効にするかを指定します。通常はLANポートと同じです。
サーバIPアドレス	WebサーバやFTPサーバなど、公開するサーバのIPアドレスを指定します。

ページ下部には仮想サーバで登録したリストが表示されます。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

特殊アプリ

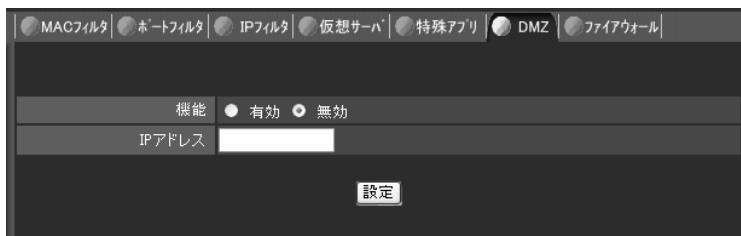
[特殊アプリ(特殊アプリケーション)]では、複数のポートを有効にできます。特定のアプリケーションで、NATなどのファイアウォール下で通信機能が動作できない場合に利用します。詳細設定内容については、各アプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

項目	説明
項目	有効：特殊アプリケーションに追加する項目を動作させます。 無効：特殊アプリケーションに項目を追加するのみで、動作させません。
名前	特殊アプリケーションに追加する項目の任意の名前を入力します。
トリガ	ここで指定したプロトコルとポートへアプリケーションからの要求があるとアプリケーションに必要な全てのポートが開かれます。
インカミング	アプリケーションが使用するプロトコルとポートの番号を入力します。 ポート指定では複数および範囲指定ができます。連続していない複数のポートは“，”(カンマ)で区切り、範囲を指定する場合は“-”(ハイフン)を使います。 例)　25,80,120-150

ページ下部には特殊アプリで登録したリストが表示されます。

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。

DMZ

[DMZ]ではインターネットゲーム(対話型)やテレビ会議などの双方向での通信が必要な場合に、使用パソコンのプライベートIPアドレスを指定します。
セキュリティ上必要な時以外は、使用しないでください。
IPアドレスは固定で使用してください。

項目	説明
機能	有効：DMZ機能を有効にします。 無効：DMZ機能を無効にします。
IPアドレス	DMZホスト機能を有効に設定するパソコンのIPアドレスを入力します。

ボタン	説明
設定	設定内容を保存します。

ファイアウォール

[ファイアウォール]では、ファイアウォールのフィルタリング規則の設定ができます。

項目	説明
項目	有効：該当テーブルを有効にします。 無効：該当テーブルを無効にします。
名前	ファイアウォールの任意の設定名を入力します。
処理	許可：規則に適合するパケットを許可します。 拒否：規則に適合するパケットを拒否します。
送信元	ポート：適用するインターフェイス(WAN,LAN,*)を選択します。（*：WANとLAN両方） 開始IPアドレス：適用する開始IPアドレスを入力します。 終了IPアドレス：適用する終了IPアドレスを入力します。
送信先	ポート：適用するインターフェイス(WAN,LAN,*)を選択します。（*：WANとLAN両方） 開始IPアドレス：適用する開始IPアドレスを入力します。 終了IPアドレス：適用する終了IPアドレスを入力します。 プロトコル：宛先のプロトコル(TCP,UDP,ICMP)を選択します。 ポート番号：ポートの範囲を選択します。

接続制限をする（アクセス制御）

ボタン	説明
追加	項目を入力後に、クリックするとリストに追加されます。
修正	画面下部のリストから、修正したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、項目を修正できます。
削除	画面下部のリストから、削除したい情報をクリックして選択後、ボタンをクリックすると、情報を削除できます。
クリア	入力した内容を消去します。
優先度アップ	リストで選択した情報の優先度を上げます。
優先度ダウン	リストで選択した情報の優先度を下げます。
優先度の修正	リストで選択した情報の優先度を修正します。

本体管理をする（管理設定）

本製品の他の設定を行います。

本体管理

[本体管理]ではWAN側からのリモート操作に関する設定、WAN側からのPingへの応答、UPnP、ゲームモード、VPNパススルーといった主にWAN側からLAN側へ通す各種プロトコルの設定を行います。

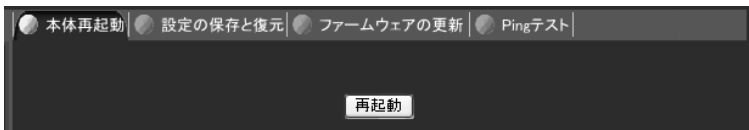
項目	説明
セキュアホスト HTTP(Web)設定	機能：WAN側からのリモート操作による設定の有効/無効を設定します。 ポート番号：WAN側からのアクセス時に使用するポート番号を指定します。 IPアドレス：WAN側からのアクセスを許可するIPアドレスの範囲を指定します。（＊：すべて）
WANポート Ping許可	機能：WAN側からのPingに応答するかどうかを指定します。 IPアドレス：遠隔地からのPing可能なネットワーク機器の IP アドレスの範囲を入力します。（＊：すべて）

項目	説明
UPnP	UPnPとは、Universal Plug and Play（ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ）の略で、ネットワーク装置、ソフトウェア、および周辺機器の間での適合性を提供するネットワークアーキテクチャのことをいいます。本製品はUPnP方式対応ルータであり、UPnP方式に対応したOS/ソフトウェアとの組み合わせで動作します。 有効：UPnPを有効にします。 無効：UPnPを無効にします。
ゲームモード	オンラインゲーム、または、ボイスデータを用いる専用アプリケーションの使用中に問題が発生した際、ゲームモードを有効にすると、これらのアプリケーションが上手く動作するようになる場合があります。ゲーム、またはこれらのボイスアプリケーションを使用していない時は、セキュリティ上ゲームモードを無効にしておくことをお勧めします。 有効：ゲームモードを有効にします。 無効：ゲームモードを無効にします。
VPNパススルー	WAN-LAN間にてVPNプロトコルを通し、本製品を介した状態であってもPPTPまたはIPsecを利用してVPN接続できます。 PPTP：VPN接続時、PPTPを利用する場合に選択します。 IPsec：VPN接続時、IPsecを利用する場合に選択します。

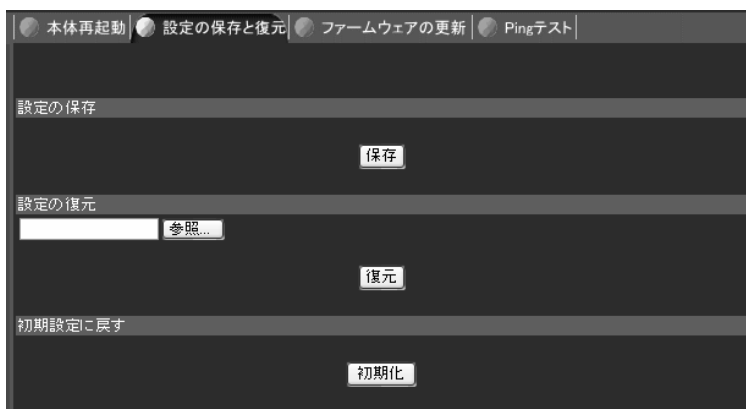
ボタン	説明
設定	設定内容を保存し、本製品を再起動します。
キャンセル	入力した内容を消去します。

設定の管理をする（メンテナンス）

本製品の設定の処理ができます。

本体再起動

ボタン	説明
再起動	クリックすると本製品を再起動します。

設定の保存と復元

[設定の保存と復元]では、設定をファイルとして保存し、さまざまな状況に備えるためにファイルを復元することができます。また、工場出荷時の状態へ戻すことできます。

項目	説明
設定の保存	本製品の各種設定情報をファイルに保存できます。
設定の復元	本製品の各種設定情報を保存したファイルから復元できます。
初期設定に戻す	本製品を工場出荷時の状態へ戻します。

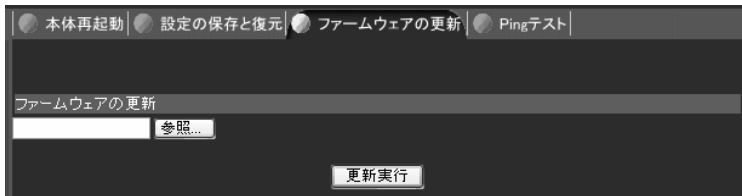
ファームウェアの更新

［ファームウェアの更新］では本製品のファームウェアを最新にアップデートすることができます。

1 弊社ホームページの「サポートライブラリ」（**http://www.iodata.jp/lib/**）から、最新のファームウェアファイルを入手します。

2 安全に更新するために、以下の作業を行ってください。
・本製品の設定をするパソコン以外のパソコンのケーブルを外します。
・WANポートのケーブルを外します。
・パソコンに常駐しているソフトウェアを停止します。

3 ［本体管理］の［ファームウェアの更新］をクリックします。

4 以下の画面が表示されますので、［参照］ボタンでファームウェアファイルの場所を指定します。
指定後、［更新実行］ボタンをクリックします。POWERランプが速く点滅しますので、２０秒ほどそのままお待ちください。
⇒更新が正常に終了すると、本製品は自動で再起動します。[戻る]ボタンをクリックするとトップページに戻ります。

更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。故障の原因となります。

Pingテスト

Pingテストでは、IPアドレスとホスト名の何れかで接続先ネットワークと正常通信が行えているかどうかを確認することができます。

項目	説明
IPアドレス	IPアドレスをテキストボックスに入力し、[Ping]ボタンをクリックします。 正常通信時には、「Ping Result：Succeed」と表示されます。

Windows(MSN) Messengerについて

ここでは、Windows MessengerやMSN Messengerを利用する方法やUPnP設定について説明します。

Windows(MSN) Messengerを利用する

Windows（MSN） Messengerの確認方法を説明します。

☞ 106ページ

UPnPを設定する

UPnPの設定/確認方法を説明します。

☞ 107ページ

Windows(MSN) Messengerを利用する

本製品ではユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP)機能を使用し、下記に対応しております。

●Windows XPのWindows Messenger（Ver.4.6以上）
●Windows XPのMSN Messenger（Ver.5.0以上）
※UPnPを使用するときは、最新のアプリケーションをご利用ください。

UPnP機能を有効にして、Windows(MSN) Messengerを利用すると、下記がお楽しみいただけます。

「インスタントメッセージの送信」
「音声チャット」
「ビデオチャット」
「アプリケーションの共有」
「ホワイトボード」
「リモートアシスタンス」
「ファイルまたは写真の送信」

以下のような環境の場合、UPnP機能を使用してもWindows Messenger、MSN Messengerの一部機能しかご利用できませんのでご注意ください。

・プロバイダから、プライベートIPアドレスを割り当てられている場合
・ルータ機能内蔵タイプのADSLモデムに接続して使用する場合

Windows Messenger、MSN Messengerの使用方法については、マイクロソフト株式会社にお問い合わせください。

UPnPを設定する

本製品は初期設定でUPnP機能が有効になっていますが、Windowsで下記設定をする必要があります。（【管理設定】の【本体管理】99ページ参照）

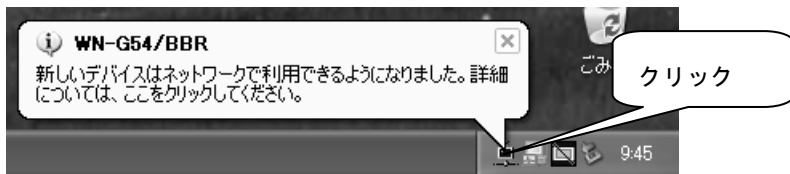
●UPnPを設定する

①[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。
②[プログラムの追加と削除]を開き、[Windowsコンポーネントの追加と削除]を開きます。
③[ネットワークサービス]を選び、[詳細]ボタンをクリックします。
④[ユニバーサルプラグアンドプレイ]にチェックを入れて[OK]ボタンをクリックします。

⑤「Windowsコンポーネントウィザード」に戻りますので[次へ]ボタンをクリックします。
⑥ウィザードが完了したら[完了]をクリックします。

これでUPnP機能は有効になります。

●UPnPを確認する

①UPnP機能が有効になると、ネットワーク上のWN-G54/BBRが検出され以下の画面が表示されますのでクリックします。

②「WN-G54/BBR」アイコン上で右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

③下の画面が表示されていたら、正常にWN-G54/BBRが認識されています。
※正常に認識されていない場合は、【●UPnPを設定する】(前ページ)をご覧の上、設定をご確認ください。

その他

出荷時設定に戻す

パスワードを忘れてしまったときなどに、本製品の設定を出荷時設定に戻します。（初期化）

☞ 110ページ

TCP/IPの基礎知識

本製品を設定するときに必要なTCP/IPについて説明します。

☞ 111ページ

困った時には

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。

☞ 114ページ

用語解説

用語について説明します。

☞ 127ページ

仕様

本製品の仕様です。

☞ 136ページ

出荷時設定に戻す

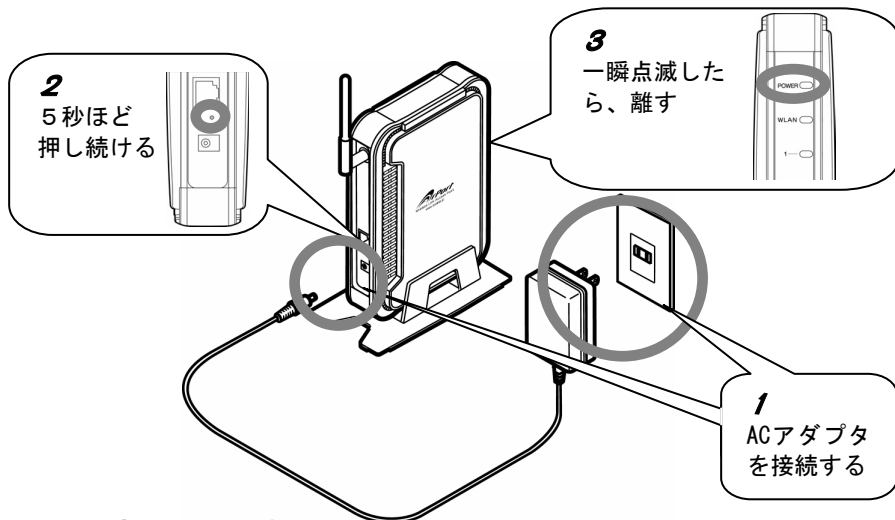
本製品のIPアドレスを忘れてしまったときなどに、本製品を出荷時設定に戻します。

以下の手順を行うと、設定内容はすべて出荷時設定に戻ります。

●リセットスイッチで戻す

1 ACアダプタを接続し、POWERランプが点灯したことを確認します。

2 細いピンなどでリセットスイッチを5秒以上押し続けます。

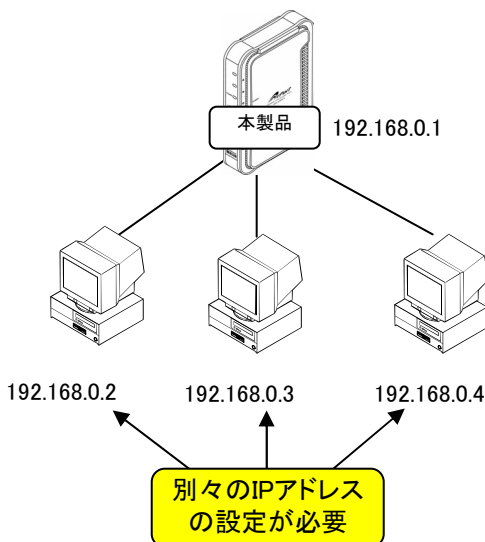
3 POWERランプが一瞬点滅したら、リセットスイッチを離します。
→本製品が再起動します。
以上で、出荷時設定に変更されました。

●Web設定画面で戻す

Web設定画面で行います。詳しくは、【設定の保存と復元】102ページをご覧ください。

TCP/IPの基礎知識

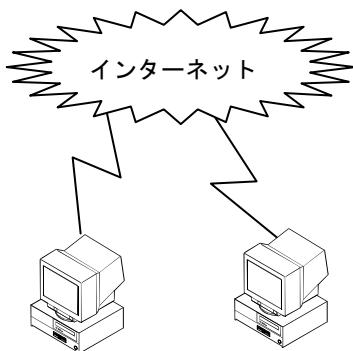
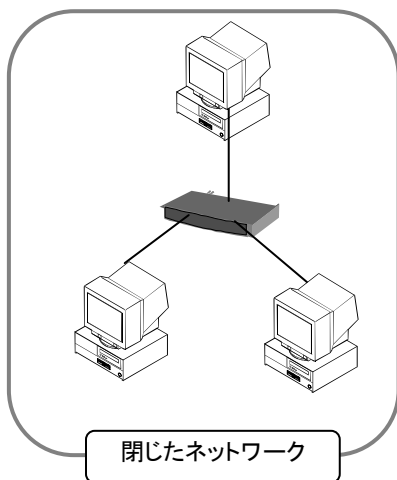
ここでは、本製品を使用する上で必要となるTCP/IPプロトコルのIPアドレスの基礎知識について説明します。必要に応じてお読みください。

同じネットワーク上では別々のIPアドレスが必要

本製品および本製品に接続したパソコンのすべてに別々のIPアドレスの設定が必要です。IPアドレスとは、データを送受信するためのパソコン同士で理解できる住所のようなものです。
町の1軒1軒の家が別々の住所を持つように、パソコンも1台1台が別々のIPアドレスを設定する必要があります。同じIPアドレスを持つパソコンがあるとどちらにデータを送ればいいのかわからなくなるためです。
例えば、本製品は出荷時「192.168.0.1」のIPアドレスを持ちますが、ネットワーク上に、本製品と同じIPアドレスを設定したパソコンがあると、他のパソコンから本製品やその同じIPアドレスのパソコンにアクセスできなくなります。

インターネットのIPアドレスとLANのIPアドレス

IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」(プライベートIPアドレス)があります。
「グローバルIPアドレス」は、インターネットで使用するIPアドレスです。
「ローカルIPアドレス」は、通常LAN内で使用するIPアドレスです。

グローバル IP アドレス	ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。
ローカル IP アドレス	インターネットに接続されていない環境(家庭内のみ、会社内のみなど)では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。

グローバルIPアドレス

ローカルIPアドレス

LAN内で使用するIPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスＡのIPアドレス］、中規模なら［クラスＢのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスＣのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。実際には、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

例　本製品の出荷時のIPアドレス「192.168.0.1」の場合は「192」

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２６	クラスＡ	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスＢ	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスＣ	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127,224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数10台で構成されるネットワークでは、クラスＣのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスＡ	10.0.0.0　～　10.255.255.255
クラスＢ	172.16.0.0　～　172.31.255.255
クラスＣ	192.168.0.0　～　192.168.255.255

困った時には

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/　（製品Q&A Newsなど）

ファームウェアをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/　（最新ファームウェア）

【設定時のトラブル】

状態	参照ページ
POWER ランプが点灯しない	116
設定画面が表示されない	116
パスワードを入力しても、設定画面が起動しない	117
パスワードを忘れてしまった	117
CATV 局がユーザを［コンピュータ名］で管理している場合の設定方法がわからない	118
パソコンを IP アドレスなどの自動取得（DHCP クライアント）として設定しているのに、IP アドレスなどを取得できない	118
PPPoE 接続で取得したグローバル IP アドレスを調べたい	119
LAN 側（LAN コネクタ［1］～［4］側）の IP アドレスを変更したら接続できなくなった	119
設定画面で文字が入力できない	119
[TCP/IP]が表示されていない　（Windows Me/98 SE の場合）	120

【インターネット接続時のトラブル】

状態	参照ページ
PPPoE 認証でインターネットに接続できない	122
［ステータス情報］の［接続状態］の表示が[切断]のままとなっている	123
IP アドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない	123
［IP アドレス］が取得できない	124
ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される *「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」*	124

【無線LAN接続時のトラブル】

状態	参照ページ
暗号化（WEP）を使用したら通信速度が低下した	125
他のアクセスポイントと通信できない（アクセスポイントモード時）	125
無線LAN製品側のパソコンと通信できない	125
無線LAN製品側のパソコンとの通信速度が遅い	126

POWERランプが点灯しない

原因	ACアダプタを取り付けていない
対処	付属のACアダプタを取り付けてください。 ACアダプタは必ず付属のものをご使用ください。

設定画面が表示されない

原因１	接続が正しくない
対処	【②設定用パソコンをつなぐ】(24ページ)をご覧になり、接続が正しいことをご確認ください。

原因２	IPアドレスの設定が正しくない
対処	【③IPアドレスを設定する】(31ページ)をご覧になり、IPアドレスの設定が正しいことをご確認ください。

原因３	Webブラウザの設定が正しくない
対処	【⑤Webブラウザを設定する】(42ページ)をご覧になり、Webブラウザの設定が正しいことをご確認ください。

原因４	セキュリティ関連のソフトウェアをインストールしている。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアの機能を一部解除すると動作する場合があります。詳しくは、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

原因５	【52ページで本製品のIPアドレスを変更した場合】 IPアドレスが正常に取得できていない
対処	現在、設定用パソコンで取得しているIPアドレスをいったん解放し、再取得します。次ページの手順にしたがってください。

●IPアドレスの解放と更新方法

《Windows XP/2000の場合》

①コマンドプロンプトを起動します。

・Windows XPの場合

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→
［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 2000の場合

［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］
を順にクリックして起動します。

②IPCONFIG -RELEASE　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスなどがすべて0.0.0.0になります。

③IPCONFIG -RENEW　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスを再取得します。

④IPCONFIG -ALL　と入力し、[Enter]キーを押します。
→IPアドレスをご確認ください。

《Windows Me/98 SEの場合》

①WINIPCFGを起動します。

［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックして、WINIPCFG
と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

②[すべて解放]ボタンをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。

③パソコンを再起動します。

パスワードを入力しても、設定画面が起動しない

原因	パスワードが間違っている
対処	正しいパスワードを入力してください。（大/小文字もご確認ください。）パスワードを忘れてしまった場合は、【パスワードを忘れてしまった】（下記）をご覧ください。

パスワードを忘れてしまった

対処	【出荷時設定に戻す】（110ページ）で、出荷時設定に戻してください。パスワードは出荷時設定で設定されていません。（未入力） また、その他の設定も初期化されますので、再設定してください。

CATV局がユーザを［コンピュータ名］で管理している場合の設定方法がわからない

対処	CATV局からの［コンピュータ名］を、本製品の［ホスト名］に設定してください。 （[有線設定]→[LAN側設定]→[ホスト名]で設定してください。）

パソコンをIPアドレスなどの自動取得（DHCPクライアント）として設定しているのに、IPアドレスなどを取得できない

原因	ネットワークの設定に問題がある
対処	本製品の[1]～[4]ランプ(LAN)が正しく点灯している場合は、以下の対応方法が考えられます。 ・前ページのアドレスの解放と更新を行う。 ・LAN アダプタのドライバを最新のものへ更新する。 （ドライバの更新、通信方式の変更方法につきましては LAN アダプタのメーカーへお問い合わせください。） ・パソコンとの間にスイッチングハブが入っている場合は、スイッチングハブを初期化する。 （スイッチングハブの初期化方法についてはスイッチングハブのメーカーへお問い合わせください。） これらの方法でも DHCP クライアントとして IP アドレスなどを取得することができない場合は、固定（手入力）でネットワークの設定を行ってください。なお、固定でネットワークの設定を行う場合は、ネットワークアドレスを合わせる必要があります。 デフォルト値（工場出荷値）で運用する場合は、TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 IP アドレス：　192.168.0.2～192.168.0.254 から他の機器と重複しない任意の IP アドレス サブネットマスク：　255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ（ルータアドレス）：　192.168.0.1

PPPoE接続で取得したグローバルIPアドレスを調べたい

対処	設定メニューから［ステータス］を選択します。 PPPoEで取得したグローバルIPアドレス（［IPアドレス］）、プロバイダ側でゲートとなっているマシンのグローバルIPアドレス（［デフォルトゲートウェイ］）、DNS(ネーム)サーバーアドレスを確認する事ができます。

LAN側（LANコネクタ［1］～［4］側）のIPアドレスを変更したら接続できなくなった

対処	**・パソコンに固定で IP アドレスを設定している場合** ①パソコンの IP アドレスには、新しく設定した（変更した）ルータの LAN 側 IP アドレスと同じネットワーククラスの IP アドレスを設定してください。 ②パソコンのゲートウェイ（ルータアドレス）と DNS アドレスには、新しく設定した（変更した）ルータの LAN 側 IP アドレスを設定してください。 **・パソコンに IP アドレスを自動的に取得させている場合** パソコンの再起動、または、パソコンが自動的に取得しているアドレスの解放と書き換えを行ってください。（【IPアドレスの解放と更新方法】（117ページ）参照）

設定画面で文字が入力できない

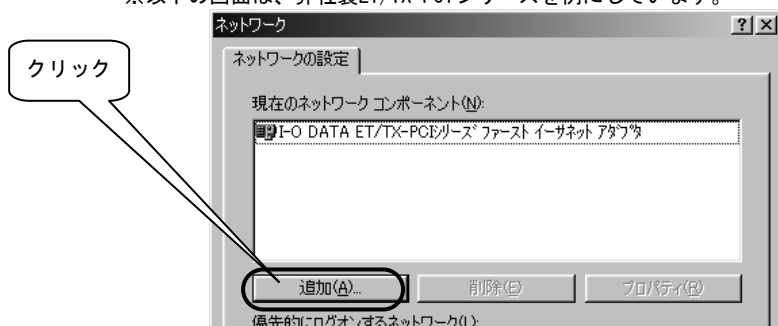
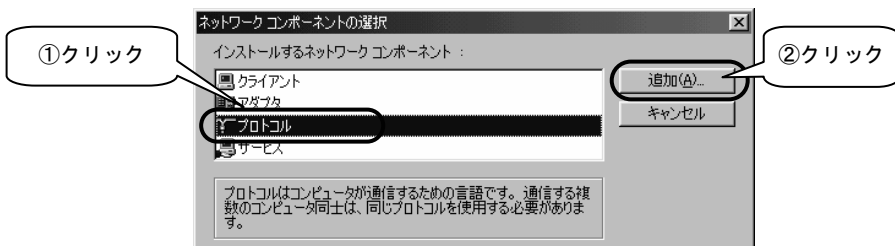
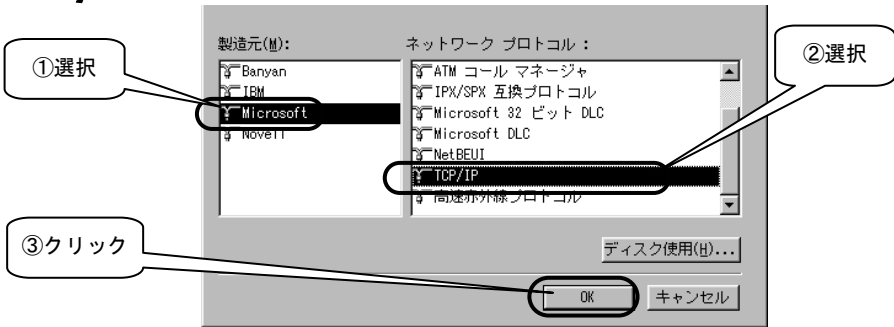
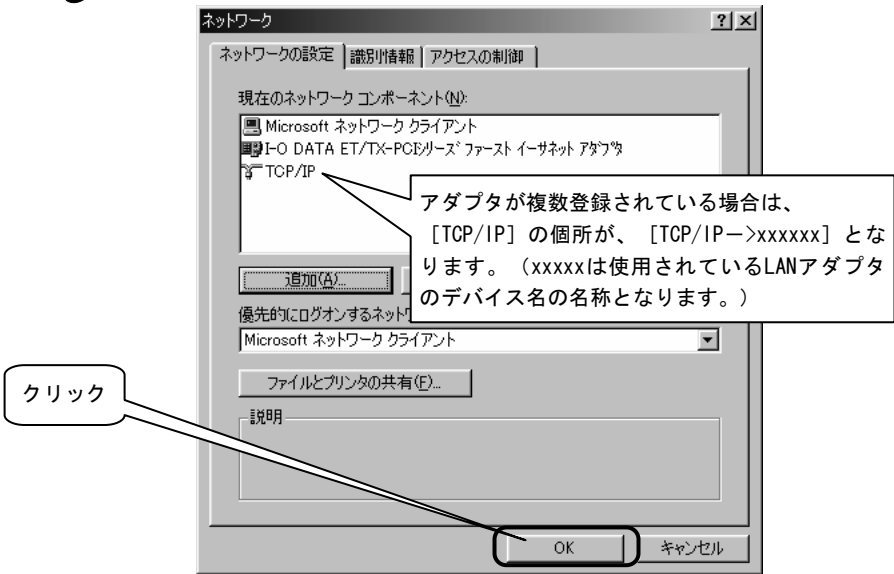
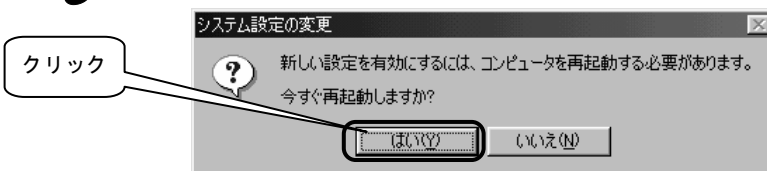
原因１	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因２	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字（半角英数字）かを確認してから入力してください。

[TCP/IP]が表示されていない　（Windows Me/98 SEの場合）

原因	TCP/IPプロトコルがインストールされていない。
対処	下記の手順でTCP/IPをインストールします。

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］を順にクリックし、[ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

2 [追加]ボタンをクリックします。
※以下の画面は、弊社製ET/TX-PCIシリーズを例にしています。

3 [プロトコル]を選択し、[追加]ボタンをクリックします。

4 [Microsoft]の[TCP/IP]を選択し、[ＯＫ]ボタンをクリックします。

5 [OK]ボタンをクリックします。

6 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

PPPoE認証でインターネットに接続できない

原因１	［WAN］側でPPPoE接続の設定が有効になっていない。
対処	PPPoE 接続の設定を確認してください。 （【有線設定】→【WAN側設定(PPPoE認証接続)】65ページ参照）

原因２	パソコン側のTCP/IP設定に誤りがある。
対処	パソコン側の TCP/IP 設定をご確認ください。 IP アドレスを自動的に取得している場合は、IP アドレスの解放と書き換えを行ってください。 IPアドレスを固定で設定している場合は、パソコンに設定したIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーのアドレスを確認してください。

原因３	PPPoEの認証に失敗している。
対処	［WAN側設定］→［PPPoE認証接続］で［ユーザーID］と［パスワード］を再度入力してください。

原因４	ADSLモデム（ブリッジタイプ）を使用するが、PPPoE認証を使用しないサービス会社である。
対処	PPPoE 認証を行わないサービス会社の場合はブリッジタイプの ADSL モデムであっても PPPoE の設定を行う必要がありません。 DHCPを使用しますので、設定画面の［WAN側設定］で、［IPアドレス自動取得/固定設定接続］で設定してください。（64ページ参照）

原因５	使用しているADSLモデムがルータタイプのモデムである。
対処	ルータタイプの ADSL モデムと接続する場合には、PPPoE の設定は不要です。 NAT を使用する場合には設定画面の［WAN 側設定］で、［IP アドレス自動取得/固定設定接続］で設定してください。(64 ページ参照) ［IPアドレス］には、ADSLサービス会社から割り当てられたグローバルIPアドレスを設定してください。

［ステータス情報］の［接続状態］の表示が[切断]のままとなっている

原因	回線が不安定である。
対処	パソコンとモデムを直接つないで、インターネットに接続できるかをご確認ください。接続できない場合は、しばらく時間をおいてからお試しください。

対処	【PPPoE認証でインターネット接続できない】(前ページ)の該当する個所の【対処】を参照してください。

IPアドレス自動取得/固定設定接続でインターネットに接続できない

原因１	［WAN］ポートにIPアドレスが設定されていない。
対処	IP アドレスが固定割り当ての場合は、あらかじめ本製品の［WAN］ポートに CATV 局から割り当てられた IP アドレスを設定する必要があります。 パソコンの IP アドレスを本製品の LAN コネクタ［１］～［４］側 IP アドレスと同じクラスのネットワークアドレスに合わせる必要があります。 本製品が工場出荷値の場合、パソコンの TCP/IP 設定に以下の値を使用します。 IP アドレス： 192.168.0.2～192.168.0.254 から任意のもの サブネットマスク： 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ： 192.168.0.1 その後、設定画面で本製品のWAN側IPをCATV指定のものに設定してください。

原因２	CATVからIPアドレスを取得できていない。
対処	CATV 局によっては、MAC アドレスを登録したネットワーク機器しかCATV に接続できなくしている場合があります。 MAC アドレスは、LAN ボード/カードや本製品などにそれぞれ別々の値が設定されていますが、CATV 局側が、本製品導入以前に接続していたパソコンの LAN ボード/カードの MAC アドレスを登録したままにしていると、本製品を導入しても CATV 局側が本製品の MAC アドレスを認識しません。CATV 局へ本製品の MAC アドレスに登録を変更する手続きを行ってください。 本製品のMACアドレスは本体底面のシール、または設定メニューの［ステータス］で確認することができます。その際、CATV局へ報告するMACアドレスはWAN側のMACアドレスとなります。

［IPアドレス］が取得できない

対処	前ページに該当する個所の【対処】を参照してください。

ブラウザを起動すると、以下のエラーが表示される

「モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。」（以下の画面）

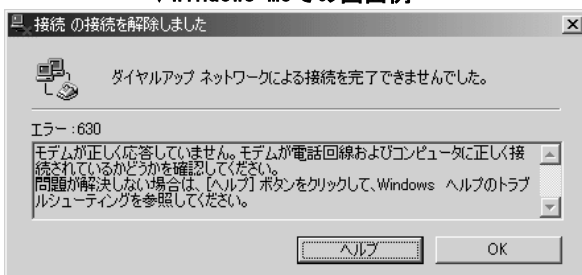
▼Windows Meでの画面例

接続 の接続を解除しました

ダイヤルアップ ネットワークによる接続を完了できませんでした。

エラー：630

モデムが正しく応答していません。モデムが電話回線およびコンピュータに正しく接続されているかどうかを確認してください。
問題が解決しない場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして、Windows ヘルプのトラブルシューティングを参照してください。

ヘルプ　OK

原因	ダイヤルアップネットワークでダイヤルアップする設定となっている。
対処	Webブラウザの設定を確認してください。（【⑤Webブラウザを設定する】42ページ参照）

暗号化(WEP)を使用したら通信速度が低下した

原因	暗号化通信では、送信するデータをすべて暗号化／復号化する必要がありますので、通信速度が若干低下する場合があります。

他のアクセスポイントと通信できない

原因	本製品同士を含むアクセスポイント同士の通信はできません。

無線LAN製品側のパソコンと通信できない

原因１	無線LAN製品側パソコンの無線の設定が正しくない
対処	無線LAN製品側のモードが[Infrastructure]になっていることと、SS IDが本製品の値と同じになっていることを確認してください。
原因２	無線LAN製品側のパソコンがWindows Me/98 SEの場合で、正常にログインしていない（パソコン起動時の［ユーザー名］［パスワード］の入力画面で［キャンセル］ボタンをクリックしているなど）
対処	パソコン起動時の［ユーザ名］［パスワード］の入力画面で正しい［ユーザ名］［パスワード］を入力してください。
原因３	無線LAN製品側のパソコンのIPアドレスの設定が正しくない
対処	無線LAN製品側のパソコンでTCP/IPを使用している場合は、正しいIPアドレスを設定してください。
原因４	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。
原因５	暗号キーの設定があっていない
対処	本製品と無線LAN製品側の暗号キーの設定を同じ暗号キーにしてください。

原因６	無線LAN製品側のパソコンのIPアドレスをDHCPサーバから正しく取得していない
対処	IPアドレスをDHCPサーバから取得している場合は、DHCPサーバが起動していること、本製品の電源が入っていることを確認してから、無線LAN製品側のパソコンの電源を入れてください。 または、以下の条件のIPアドレスに手動設定してください。 ・”DHCPサーバが割り当てるIPアドレスと同一クラス”　かつ 　”DHCPサーバが割り当てるIPアドレスの範囲外”

原因７	MACアドレスなどで接続制限されているLANアダプタから通信している
対処	接続制限を解除してください。（【接続制限する(アクセス制御)】88ページ参照）

無線LAN製品側のパソコンとの通信速度が遅い

原因	電波の状態が悪い
対処	無線LAN製品と本製品間の距離を短くしたり、障害物を取り除いて見通しをよくしたり、チャンネルを変更してみてください。

用語解説

10BASE-T

ツイストペアケーブル（10BASE-T ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 10Mbps です。

100BASE-TX

ツイストペアケーブル（100BASE-TX ケーブル）を使用した Ethernet の通信方式の一つで、最大伝送速度は 100Mbps です。

Ad Hoc

「アドホック」といい、アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

ADSL　*(Asymmetric Digital Subscriber Line)*

従来の電話回線（メタルケーブル）を利用し、専用のモデムで高速なデータ伝送を可能にしたデジタル技術の1つです。

CATV　*(CAble TV)*

同軸ケーブルによって接続した限定地域に対して、多様なサービスを提供する TV 放送システムです。

DHCP　*(Dynamic Host Configuration Protocol)*

自動的にネットワークの設定を行うプロトコル（通信手順）のことです。
DHCP サーバーはネットワークの DHCP クライアントに対して、自動的にネットワークの設定を行います。

DMZ　*（DeMilitarized Zone）*

Web、DNS、FTP などの公開サーバをインターネット側からの不正な攻撃から守るため、ファイヤウォールにより設けられたセグメントです。

DNS　*（Domain Name System）*

TCP/IP ネットワークで使われ、コンピュータについた名前と実際の IP アドレスを関連付けるシステムです。

DNS サーバー

ネットワークのグループについた名前を問い合わせると、その IP アドレスを教えてくれるサーバーのことです。DNS サーバーを使用することにより、WWW ブラウザ等のアドレス入力欄でアドレスを文字で入力することができます。
（IP アドレスの数値を直接入力する必要が無くなります）

DS-SS　*（Direct Sequence-Spread Spectrum）*

「直接拡散・スペクトラム拡散」方式といい、無線通信における変調方式の1つです。干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet

Xerox 社、DEC 社、Intel 社の 3 社が仕様を開発した LAN の通信方式で、10BASE-T、10BASE5 等があります。

FTTH　*（Fiber To The Home）*

光ファイバーを用いた高速デジタル通信網を個々の家庭まで敷設する通信ネットワーク構想です。

IEEE802.11

IEEE（The Institute of Electrical and Electronics Engineers,Inc.）という非営利団体が定める無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。
IEEE802.11gでは、通信速度が54Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure

「インフラストラクチャ」といい、アクセスポイントを介して通信する無線 LAN の形態のことです。

IP アドレス

TCP/IP プロトコル（インターネットで使用されている規約）を使用して構築されるネットワークで、接続されている全ての機器を区別するために付けられるアドレス（番地）のことです。

IP マスカレード

プロバイダから提供された一つのグローバル IP アドレスを複数のプライベート IP アドレスへ変換し、同時に複数台のコンピュータでインターネットに接続できるようにする機能です。NAT とは異なり、同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、プロバイダから提供されたグローバル IP アドレスの数には依存しません。

ただし、IP マスカレードでは正しく動作しないアプリケーションもありますので、その場合は NAT を使用します。

ISP　*(Internet Service Provider)*

インターネット・サービス・プロバイダの略称です。（単にプロバイダと呼ばれることが多い）

企業や個人に対しインターネットへ接続する通信サービスを提供する回線業者のことです。

LAN　*(Local Area Network)*

ローカル・エリア・ネットワークの略称です。小規模なコンピュータネットワークのことです。

LAN に対して WAN(Wide Area Network)があり、WAN は LAN 同士を結ぶ大規模なネットワーク（インターネット等）のことです。

MAC アドレス　*(Media Access Control Address)*

Ethernet 機器ごとの固有の物理アドレスです。
MAC アドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードは IEEE が管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet 機器の製造メーカが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。Ethernet ではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

NAT　*(Network Address Translator)*

LAN で使用しているプライベート IP アドレスをインターネットで使用できるグローバル IP アドレスへ変換することにより、プライベート IP アドレスしか持たない LAN のコンピュータからインターネットへ接続できるようにする機能です。
NAT の場合、プライベート IP アドレスとグローバル IP アドレスは 1 対 1 で対応していなければなりません。同時にインターネットへ接続できるコンピュータの台数は、ISP や RAS サーバーから提供されたグローバル IP アドレスの数に依存します。

POP　*(Post Office Protocol)*

電子メールをスプールしているシステムから、TCP/IP プロトコルを使ってメールスプールの内容を読み出すためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC1939 で定義されています。
POP3 サーバとは受信メールサーバのことを指します。

PPPoE　*(PPP over Ethernet)*

ネットワーク（Ethernet）上で、ダイヤルアップ接続（PPP 接続）のような利用者のユーザー名、パスワードのチェックを行うために作り出された規格です。

SMTP　*(Simple Mail Transfer Protocol)*

電子メールを送信するためのプロトコルです。
プロトコル仕様は RFC821 などで定義されています。
SMTP サーバとは送信メールサーバのことを指します。

SS ID （*Service Set ID*）

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS ID が一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP （*Transmission Control Protocol ／ Internet Protocol*）

通信プロトコルの1つ。
最も普及しているプロトコルで、インターネット上の通信にも使われています。

Telnet

遠隔地からほかのコンピュータにログインして、遠隔操作を行なう仮想端末プロトコルです。
プロトコル仕様は RFC854 で定義されています。
テキストベースの通信を行ない、コマンドを送信する際にはエスケープコードを利用します。一般的には TCP/IP のポート番号 23 番を使用します。

WAN （*Wide Area Network*）

通常は LAN に対比して使用される言葉で、遠隔地にあるコンピュータ同士（LAN 同士）を公衆回線網を使って接続したネットワークのことです。

WEP （*Wired Equivalent Privacy*）

IEEE802.11b に含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

xDSL （*x Digital Subscriber Line*）

ADSL や SDSL、HDSL、VDSL などを総称して呼ぶ言葉です。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線 LAN と無線 LAN の中継点ともなります。

クライアント

ネットワーク内で、サービスを受ける側のことです。

グローバル IP アドレス

インターネットを使うことを許された IP アドレスです。

ゲートウェイ

通信手順の異なるネットワーク同士を接続するための機器やシステムです。
ゲートウェイに該当する機器の IP アドレス（ゲートウェイアドレス）をゲートウェイと呼ぶこともあります。

サーバー

ネットワーク内で、他のパソコン（クライアント）からの要求を受け、サービスを提供する側のコンピュータのことです。

サブネットマスク

LAN で使用可能なアドレスの範囲を決めるために、IP アドレスと組み合わせる値です。

スタティックルーティング

ルーティングするための情報をあらかじめルータに設定しておき、常に決まったルートを通って目的のノード（ネットワークに接続されているコンピュータ等）へパケット（ネットワーク内を流れるデータ）を送る方法です。静的ルーティングとも呼びます。

セッション

TCP/IP プロトコルによるデータ処理の単位です。

ダイヤルアップ IP

インターネットへ接続する際に、モデムや TA 等で ISP へ電話をかけて接続する方法です。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

パケット

ネットワーク内を流れるデータです。

パケットフィルタ

ルータの機能を強化して、個々のパケットの単位で通過させたり、禁止したりできるようにしたものです。

ハブ

10BASE-T ケーブル(RJ-45 規格)を複数本集めて、通信を行うための LAN 機器(集配線装置)です。

ピアツーピア接続

サーバー／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ファイヤウォール

組織内外からの通信すべてに対して、通過させたり、禁止したりすることによって、必要なサービスだけをユーザーに提供しつつ、セキュリティを確保します。
名前の由来は「防火壁(firewall)」に因んでいます。

ファームウェア

本製品内部で動作し、本製品のコントロールを行うプログラムです。

プライベート IP アドレス

組織内部のネットワークアドレスとして、自由に利用できる IP アドレス。
以下のものが利用できるとされています。

ClassA　:　10.0.0.0～10.255.255.255
ClassB　:　172.16.0.0～172.31.255.255
ClassC　:　192.168.0.0～192.168.255.255

ブリッジ

LAN のセグメント間を相互接続する機器で、OSI 参照モデルのデータリンク層で動作します。
パケットの衝突(コリジョン)が増え、パフォーマンスが低下するという事態を回避するためコリジョンドメインを制限して、ネットワークを効率化するために作られたネットワーク機器です。

リンク

各機器間を接続することです。

ルータ

複数の LAN 等、ネットワークを相互に接続するための機器です。
異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目を持っています。
ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワーク宛であれば、ルータはそのデータを外部に送り出します。
ルータはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送り出しています。
必要によっては通過させるデータやプロトコルの種類を制限することも可能です。

ルーティング

ネットワークのパケットを、正しく目的ノード（ネットワークに接続されている機器）へ届くように制御することです。

ローミング

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントの SS ID と WEP が同じ設定である必要があります。

バーチャルサーバ（仮想サーバ）

「バーチャルサーバー機能」といい、本製品では Web、DNS、FTP などのサーバーをインターネット上へ公開する場合に使用します。

仕様

●本製品の仕様

商品名	IEEE802.11g※ 無線LAN アクセスポイント付ブロードバンドルータ
製品型番	WN-G54/BBR
規格	無線部：IEEE802.11g※, IEEE802.11b, ARIB STD-T66 有線部：IEEE802.3, IEEE802.3u
周波数帯域	2.4GHz帯　(2.4～2.4835GHz)
チャンネル	1ch～13ch
伝送方式	IEEE802.11g※：直交周波数分割多重(OFDM) IEEE802.11b：直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	IEEE802.11g※：6/9/12/18/24/36/48/54Mbps IEEE802.11b：1/2/5.5/11Mbps
変調方式	IEEE802.11g※：OFDM with BPSK, QPSK, 16QAM, 64QAM IEEE802.11b：DBPSK, DQPSK, CCK
無線設備の種別	小電力データ通信システム
データ到達距離（最大）	屋内：約100m 屋外：約300m ※環境により変化します。
セキュリティ方式	WEP (Wired Equivalent Privacy), MACアドレス接続制限
MACアドレス制限最大登録件数	拒否：50件
DHCP	DHCPクライアント(WAN)/サーバ(LAN)
アクセス方式	インフラストラクチャ [Infrastructure]
アンテナ方式	ダイバシティ方式 外付け可動式アンテナ×１ 内蔵固定アンテナ×１
ＬＥＤ表示	POWER, WLAN, LAN1～4, WANランプ
イーサネットインターフェイス	10BASE-T/100BASE-TX(RJ-45)コネクタ WAN×1、LAN×4
ACアダプタ	入力：AC100V 出力：DC 5V　2.0A
電源電圧	DC 5V±5%
消費電流	最大 1.3A
動作温度範囲	0℃～35℃
動作湿度範囲	10%～85%（結露しないこと）
外形寸法	約38（W）mm×120（D）mm×171（H）mm(アンテナ、スタンド含まず)
質量	約360g（本体のみ）

※IEEE802.11gは2003年4月現在ドラフトです。IEEEによる正式承認後、弊社Webサイトにて正式にご案内いたします。

●本製品の初期値（出荷時設定）

項目		初期値
LAN側設定	ホスト名	（設定なし）
	IPアドレス	192.168.0.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバ	有効
	→開始IPアドレス	192.168.0.2
	→終了IPアドレス	192.168.0.32
	ドメイン名	（設定なし）
	リース時間	1日
WAN側設定	接続方法	IPアドレス自動取得/固定設定接続
	IPアドレス	IPアドレス自動取得
	DNS(ネーム)アドレス プライマリ	0.0.0.0（自動取得）
	DNS(ネーム)アドレス セカンダリ	0.0.0.0（自動取得）
無線LAN側設定	SSID	default
	チャンネル	6
	WEP	無効
アクセス制御	MACフィルタ	無効
	ポートフィルタ	無効
	IPフィルタ	無効
	仮想サーバ	無効
	特殊アプリ	無効
	DMZ	無効
管理設定	HTTP設定	無効
	WebポートPing許可	無効
	UPnP	有効
	ゲームモード	無効
	VPNパススルー	無効

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困った時には】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Ｑ＆Ａ
Newsなど

ファームウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のファームウェアをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
ファームウェア

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター

電話：　本社…**076-260-3644**　東京…**03-3254-1144**
※受付時間　9:30～19:00　月～金曜日（祝祭日を除く）

FAX：　本社…**076-260-3360**　東京…**03-3254-9055**

インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

１．ご使用の弊社製品名

２．ご使用のパソコン本体の型番

３．ご使用のOSのバージョン

４．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて
修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

・下の内容を書いたもの

返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］，日中にご連絡できるお電話番号，ご使用環境（機器構成、OSなど），故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理センター　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。

※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。